

官版

國法汎論

下帙

第十冊

一四



明治七年刊行

イ、カ、ブルン、著  
從五位加藤和之譯

下帙第十冊

# 國法汎論

## 文部省

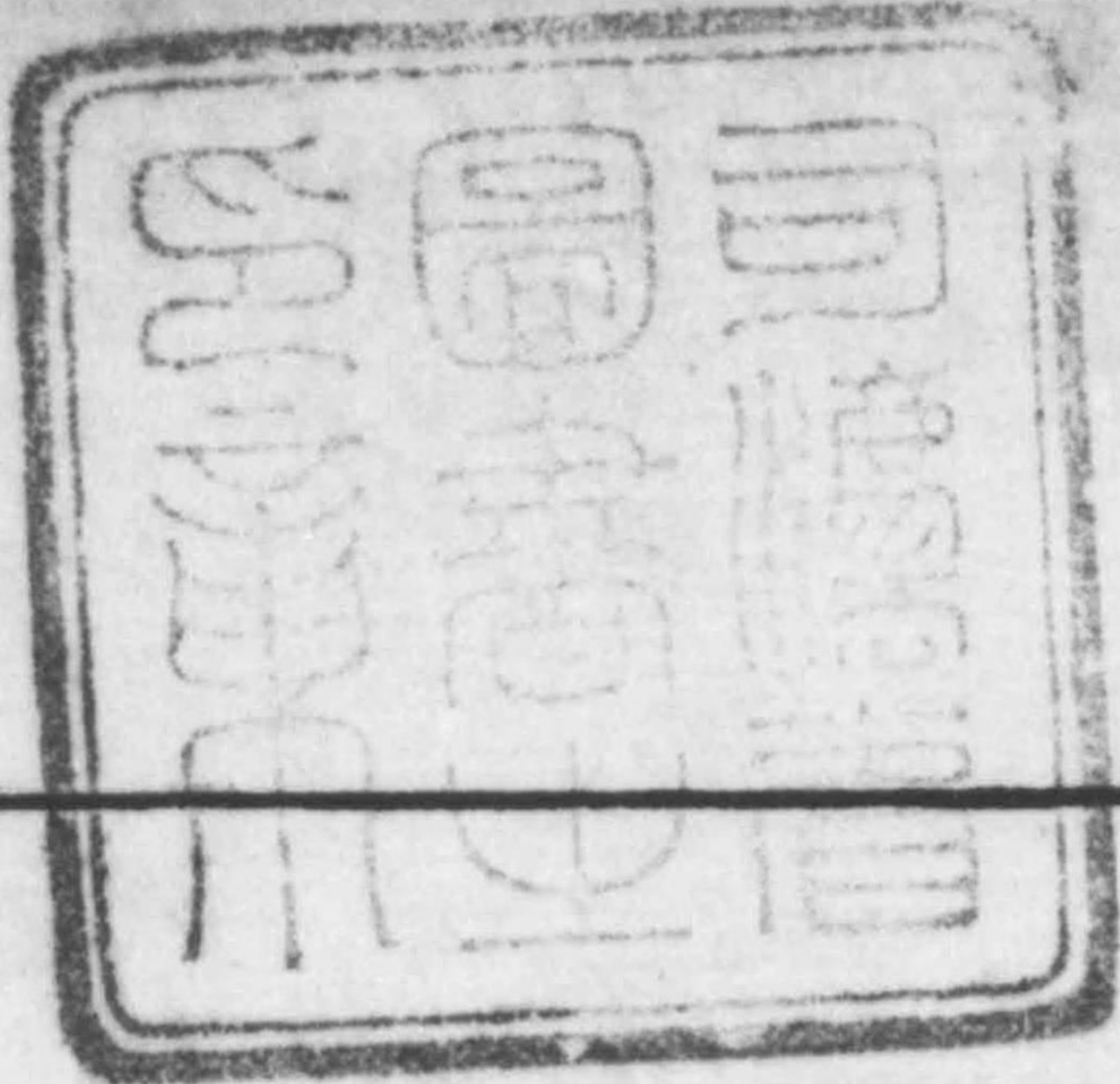
大審院文庫	
和書門	中六百九
一部於書冊	中九号出入

下帙第十冊

國法汎論卷之九下目錄

- 第八款 國家ト學術トノ關涉
- 第九款 國家ト人民學校トノ關涉
- 第十款 職業學校、工藝學校、及ヒ學者、學校
- 第十一款 大學校
- 第十二款 集賢館

B200  
B 2  
1. b10



國法汎論

卷之九下目錄

文部省



國法汎論卷之九下

瑞士

イ、カ、ブルン、五リ 著

加藤弘之 譯

第八款

國家ト學術トノ關係デアル、スタル、

ヘルトニス、ツール、ホッセン、  
シフト、ウインド、クンスト、

〔第一〕國家ト學問トノ關係ハ、神道トノ關係ヨリ

モ、更ニ親密ナリト雖、國家ハ學問ノ旨意上ニモ、

亦敢テ關スルノ權ナシ、然ルニ國家學問ノ旨意

上ニ關スルヲ以テ其本務トナシ、且、學問ヲ以テ、

國家ノ特別ニ掌ルヘキ者ト為セル國往々之、



り、支那ノ如キ最然リトス、中央ノ天國ヒムメル  
ヒ、デ、ル、ニ、テ、ハ、其、皇、帝、ヲ、以、テ、兼、テ、  
天、下、ト、云、フ、ノ、義、歟、ニテハ其皇帝ヲ以テ兼テ  
 學問ノ大權ヲ握ル、大主トシ、之ヲ尊敬シ、且國家  
 碩學鴻儒等ヲ舉ケテ、マ、ン、ダ、リ、ン、ト稱シ、而テ其  
 階級ヲ分段シテ尊卑ヲ定ムルノ權、他諸官吏ヲ  
 任スルノ權ト全ク相同シ、○此國臣民ノ學問ヲ  
 為スヤ、政府確定スル所ノ方法規矩ヲ固守セサ  
 ル可ラサルノ法アリ、故ニ苟此法ニ背ク者アル  
 片ハ、則國法ニ背ケル罪犯トナルナリ、但斯學問  
 ヲ束縛スルハ、元來國家ノ權ニ在ル可キヲ、ニ、ア、

ラスシテ、大ニ學問ノ學問タル所以ノ理ヲ損害  
 カル者ト云フ可シ、是ニ於テ學問ハ遂ニ淺近ニ  
 止マリ、輕薄ニ陷リテ、決シテ性理ノ蘊奧ヲ詳密  
 ニ探討シ、及古今ノ沿革ヲ自在ニ觀察スルノ用  
 ヲ為スニ足ラス、○凡人ノ精神ハ、益、真確ノ理ヲ  
 究メント欲スル者ナレハ、必ス人々ニ一身ノ自由  
 權ヲ許シテ、其精神ヲ自由ニ發動セレムルヲ甚  
 緊要ナリ、蓋一身ノ自由權ハ、決シテ國家ノ換ク  
 ル所ニアラス、又命スル所ニアラス、實ニ天神ノ  
 人性ニ賦與スル所ナリ、



學問モ亦神道ノ如ク、決レテ國家ノ造為啓發ニ出ルニアラス、獨、永遠不滅ノ、人魂、常ニ天神ノ真理ヲ渴望シ、之ヲ要求セント欲シテ、勉力勵精スルヨリ、獲ル所ノ、事實ナルノ、是故ニ國家ハ敢テ學問ヲ制馭スルノ權ナキカ如ク然リ、國家ハ敢テ學問ノ旨意ヲ制定スルノ權柄、及權利ヲ握ル能ハス、又人々真理ヲ要求セント欲スル心志ヲ防制スルノ權利ヲ握ル能ハス、人々學問ハ自由權ハ實ニ天神ハ設立スル所ナリ、故ニ國家ハ必、此權ヲ敬重ス

ルノ義務ヲ負擔セサル可ラス、⊖

⊖ スピノサ謝人一千六百三十二年カ著セル

政治學ノ書ニ云、人或ハ賞酬ヲ以テ勸誘セラレ、或ハ譴罰ヲ以テ驚嚇セラルト云フ、決レテ為シ能ハサル所行アリ、而テ此所行ハ、總テ政府ノ權利ヲ以テ制レ得可キ者ニアラス、蓋人タル者ハ、決シテ其思考ノ力ヲ放擲スル能ハサル者ナリ、例ヘハ或ハ賞酬ヲ以テシ、或ハ譴罰ヲ以テシテ、人ヲシテ『全部ハ局部ヨリ大ナラサル可シ』ト、思考セシメント欲スルモ、豈



得へキノ理アランヤト、○普魯士ノ國憲第二十章ニ云、學問ノ事、人ノ自由ニ任ス、土地ノ國憲ニ載スル所モ亦同シ、

〔第二〕然ルニ又國家ハ、學問ヲ全ク度外ニ措クヲ良好トシテ、其制度ヲ立テント欲スルノ國儘之アリト雖、是亦決レテ取ルヘキノ論ニアラス、蓋國家ノ真理、近世始テ明確トナリ、及其權柄始テ整備セレハ、殊ニ中古ノ世ニ束縛セラレシ學問、近令ニ至リ漸、羈縻ヲ脱レテ、自由ニ其力ヲ伸フルヲ得シニ由ルナリ、○方今國民ノ過半ハ殆、學

問ニ従事セス、且、學問ノ功益ヲ悟ラサルカ如ト雖、殊ニ國事ニ關係アル民人按立法府議員ノ選以上ノ民人ナリ、如キハ、直ニ學習ノ事實ヲ獲テ、開化ノ人トナル、敢テ辨ヲ俟タス、加之、下等貧賤ノ民衆スラ、尚自ラ學問ノ庇蔭ヲ蒙リ、且、隨テ學問ノ今日ニ功益アル所以ヲモ知ルニ至ル、亦敢テ疑フ可ラス、○學問ノ國家及民人ニ緊要ナルヤ、此ノ如ク其大ナリ、然ルヲ國家ハ學問ヲ度外ニ措テ、敢テ其勸導ニ勉勵スルヲ要セスト云フテ可ナランヤ、



第三是故ニ國家ハ必<sup>ス</sup>學問ニ心ヲ用ヒテ、其上進  
 ヲ幫助セサル可ラス、中古ノ世ニハ教會專ラ學  
 問勸導ノ<sup>ト</sup>ニ從事シ、學校書院ヲ建造シテ之ヲ  
 管轄シ、及<sup>シ</sup>書籍ヲ公布スル等ノ<sup>ト</sup>ヲ掌リタリキ、  
 是故ニ中古ノ世ニ於テハ、教徒ノ學問勸導ニ功  
 勞アリシ<sup>ト</sup>、實ニ少カラスト雖<sup>モ</sup>、教徒ハ獨<sup>ニ</sup>神道ノ  
 偏少ナル區域内ニ於テ、人智ノ開明ヲ謀ラント  
 欲シ、而<sup>シ</sup>テ若<sup>シ</sup>神道ノ旨意ニ依ラス、他方ヲ以テ真  
 理ヲ探求セント欲スル者アル<sup>ハ</sup>、大ニ之ヲ惡  
 テ妨碍セシカ故ニ、實ニ學問ノ自由權ナル者ハ

絶<sup>テ</sup>之<sup>レ</sup>アラサリキ、  
 然ルニ第十六世期代一十五百年ニ於テ、教會ノ改  
 正アリシヨリ、學問ノ景況全ク一變セリ、蓋<sup>シ</sup>改正  
 派專ラ精神ノ自由ヲ主張シテ、神道ノ宿弊ヲ矯  
 正セシヨリ、學問ノ<sup>ト</sup>モ亦必<sup>ス</sup>自由ナラサル可ラ  
 サルノ論、及<sup>シ</sup>勸學ノ事務ハ國家宜シク之ヲ掌ル  
 可<sup>シ</sup>ト云フノ論、盛ニ發生シ、遂ニ全ク實際ニ行  
 ハル、ニ至リタリ、但シ學問ノ景況一變セシハ、  
 特ニ教會ノ改正ノ<sup>ニ</sup>由リテ然ルニアラス、既  
 ニ其以前ニ於テモ、神道ノ教導ヲ旨トセス、專ラ



他學科ノ教導ヲ旨トセル學校全クナカリシニ  
 ハアラス、且、教會改正ノ後ニ至リテハ、絶<sub>レ</sub>テ改正  
 ニ關係セサル加特力國ニ於テモ亦同<sub>レ</sub>ク學問  
 ノ景況變化スルニ至リタリ、○是故ニ御昔ハ教  
 會專ラ主トナリテ、勸學ノ事務ヲ掌リ、國家ハ僅  
 ニ之ヲ補助スルニ過キサリレカ、景況變化セシ  
 以來ハ、國家專ラ主トナリテ、勸學ノ事務ヲ掌リ、  
 教會ハ却テ之ヲ補助スルニ過キサル者トナレ  
 リ、即、教會學問ヲ制馭スルノ權廢滅シテ、國家學  
 問ヲ監督スルノ權起立シタルナリ、而テ此監督

ハ權ハ學問ヲ制馭スル權ト全ク學問ヲ度外ニ  
 措テ關セサル制トハ正中間ニ位スル者ナリ、○  
 然ルニ二三ノ經綸者ノ材能アル人ヲ云フ、論  
 ニ、國家ハ銳意ニ勸學ニ心ヲ用フル（學校ノ外ニ  
 モ亦（按）學者ヲ獎勵シテ、專ラ真確公正ノ道理ヲ  
 ハル等（類）ノ權ヲ有スルヲ、甚緊要ナリト云ヘ  
 リ、○去レテ此權ヲ以テ、國家當然ノ權利トナスニ  
 至ルハ、蓋、後世ニ在ラン、

○パルツ（獨）乙人一千七百カ著セル普國（一）  
 九十五年ニ生ル、  
 ステルス（一）タイン、  
 一千七百五十七年ニ死ス、  
 傳



ニ、スタインノ論説ヲ舉ク曰ク方今ノ世ハ萬事暴  
 權ト壓抑トニ由ラサル者ナレト雖（按）當時獨  
 佛國ノ制馭ヲ受（按）國全ク此事自ラ廢絶シテ、真ニ自由  
 權ノ行ハル、世、再、來ルヲ渴望セサル可ラス、  
 是故ニ人君タル者ハ、文學ヲ勸ム、教育ヲ勉メ  
 夫、以テ天下ノ公論ヲシテ、純清活潑ナラシム  
 ルヲ、最緊要ナリ、○獨乙國ノ如キハ、人々學問  
 ヲ嗜ムノ心甚深ク、且、公學校ノ教育ヲ受ケル  
 人、甚多キカ故ニ、著述者ノ邦國ニ利害アル、他  
 邦ヨリモ更ニ大ナリ、蓋、獨乙人學問ヲ嗜ムノ

深キハ、元來其性情靜穩ニシテ、且、思慮深密ナ  
 以テ、及、國憲ノ善良ナルトニ由ルナリ、且、獨乙  
 ニテハ、學校書院ノ數許多ニシテ、學者ノ事業  
 ヲ要スルヲ多キカ故ニ、著述者ノ負數、多邦ヨ  
 リモ更ニ多シ、是故ニ人君タル者ハ、著述者等  
 ヲ獎勵シテ、專ラ真確公正ノ道理ヲ世ニ昭明  
 ニナスヲ從事セシメ、以テ方今ノ暴權壓抑  
 ヲ可トナセル暴惡說ヲ防制セシムルヲ要ス  
 ト、

〔第四〕國家學問ノ事務ヲ掌ルノ方法數種アリ、而



テ或ハ陽ノ方向ヲ以テ、勸導ヲ旨トスル方法  
 デチリヘ、ヘルデレンアリ、或ハ陰ノ方向ヲ以テ、限  
 制ヲ旨トスル方法ケンダチリヒッペンゲンアリ、

〔甲〕國家學事ニ功績アル者ニ榮譽ヲ授與スルキハ、先  
 ハ、其益甚少、カラス、國家此政ヲ施行スルキハ、先  
 自己ヲ尊敬レ、及、自己ノ品行ヲ貴ラスルニ足リ、  
 且、實ニ本人ノ功績ヲ賞酬シ、併セテ他人ヲ獎勵  
 スルニ足ル、○普魯士國ノ將ニ獨乙全國ノ首領  
 タラントスルノ勢ヲ得レハ、殊ニ學問ヲ尊重シ、  
 及、國內ニ偏ク學校ヲ興立レテ、以テ專ク學問ノ

勸導獎勵ニ心ヲ用ヒシカ故ナリ、然ルニ墾地利  
 ハ輓近獨乙ノ學問ヲ勸ムルニ心ヲ用ヒス、且、  
 東方諸國（註）歐洲東ヲ教化スルニ心ヲ怠リシカ故  
 ニ悲シイ哉、遂ニ獨乙第一等ノ開明國タル穀譽  
 ヲ墮スニ至レリ、○凡人ノ精神ハ、本人能ク之ヲ  
 用キルノ術ヲ知レハ、則、自己ノ利トナリ、本ハ若  
 能ク之ヲ用キルニ知ラサレハ、則、自己ノ害ト  
 ナル者ナリ、學問モ亦然リ、國家能ク之ヲ用キル  
 ハ術ヲ知レハ、宛、忠勇果敢ノ強兵ニ異ナラスト、  
 雖、國家若之ヲ蔑視レテ、用キサルハ、宛、強大當



ハ可ラサル、敵軍ノ如クカレヘシ  
 但レ國家學事ニ功績アル者ヲ賞譽スルニ就テハ、  
 必ス先ツ宜シク其真偽ヲ辨別ス可シ、國家ハ唯公衆  
 ノ安寧ヲ増進シ、及、真確ノ理ヲ博ク傳播シタル  
 者ヲ賞ス可シ、凡、學事ノ功績愈盛ニ愈大ニシテ、  
 國家及、民人ノ為ニ愈有益ナルニ隨テ、國家ハ愈  
 高大ノ賞譽ヲ與ヘサル可ラス、○一個人精神ノ  
 自由ヲ敬重スル國ニ於テハ、人動モスレハ他人  
 ヲ欺騙スル巧言ヲ吐キ、他人ニ疑惑ヲ生セシム  
 ル虚説ヲ唱ヘ、或ハ妄ニ他人ヲ譏謗非議スル等

ノ一ナキ能ハサルヲ以テ、國家ハ能ク意ヲ用キ  
 テ之ヲ辨識ス可シ、而テ縱令衆人は是等ノ惡所行  
 ヲ以テ、是トスルヲアリ、國家ハ決シテ之ヲ賞  
 譽ス可ラス、國家ハ敢テ是等ノ所行ヲ賞譽セザ  
 ルヲ以テ、其義務ト為サ、ル可ラサルノ理ハ、宛  
 上ニ舉ケタル真誠ノ功績ヲ賞譽スルヲ以テ、其  
 義務ト為サ、ル可ラサルノ理ト相同シ、  
 (乙)凡、學問ヲ勸導セント欲セハ、之カ為ニ數種ノ  
 材料ヲカル可ラス、是故ニ國家ハ其力ニ應シテ、  
 學習ノ用ニ供スヘキ諸器械諸物品等ヲ備ヘテ、



自由ニ之ヲ使用セシメ、或ハ學問上經驗試習セ  
 シテ、世ニ公布セント欲スル者アリテ、國家ノ  
 補助ヲ要スルコトアレハ、國家公財ヲ捐テ、其業  
 ヲ補助スルヲ良好ト為ス、

〔丙〕國家大學校ヲ建立シ、及其費用ヲ給シテ、大ニ  
 知識ヲ開明スルノ處ト為ス、但此事ニ就テハ、末

款〔按〕即第十ニ於テ詳論ス可シ、○教部ミニステ

ル〔按〕教道及ヒ學術ハ、學問講求ノ方法如何ニ拘

ハラズ、常ニ能ク之ヲ注視シ、及國內ニ於テ學事  
 ニ就テ緊要ノ事生スレハ、悉ク之ヲ報知セシメ、

而テ其事ノ次第景狀ニ着眼シ、及其事ノ國家民  
 人ニ如何ナル關係ヲ生ス可キヤヲ探索スルヲ  
 以テ、其職掌ト為ス可シ、是即帝ニ是等ノコトヲ自  
 己ノ帳簿ニ記載スルカ為メニナラス、尚適宜ニ  
 自己ノ事務ヲ施サンカ為メナリ、

〔丁〕國家ハ唯功益アル學問ノミヲ勸導スヘキコト、  
 固ヨリ論ヲ俟ス、去レ縦令功益ナク、或ハ真確ナ  
 ラサル可ク見ユル學問ト雖、亦必之ヲ保護セサ  
 ル可ラス、○國家ハ各人奉スル所ノ神道ヲ保護  
 セサル可ラサルカ如ク、〔但〕獨基督教ヲ愛敬ス〔學〕



問ニ就テモ亦其人ノ自由權ヲ保護シテ、非議者、或ハ賤民等ノ為ニ、妨害ヲ受ルルナカラシムルヲ要ス、縱令其學問、理ニ合セサルトモ亦然ハ、○彼「人タル者ハ、自ラ真確ナリトセル事ヲ、自由ニ道出ス、權利アリ、何者、人タル者ハ、斯カ為スヘキ義務ヲ負擔ス、レハナリ、ト云ヘル語〔按本卷第二〕」〔第二〕ニ出タル井子カ語ト、文章少レク異ハ、此ナレトモ、恐ラクハ此語ヲ引キレタルヘシ、事ニモ正ニ適合ス、

〔戊〕去レ氏國家若陋惡鄙劣ナル學問ノ、公衆ノ為ニ妨害アルヲ知ルルハ、彼限制ヲ旨トスル方法ヲ

以テ、之ヲ防阻セサル可ラス、但唯實ニ國家ノ健全安寧、及民人ノ風俗行狀ノ為ニ、大害アルト明瞭ニシテ、且其害決シテ自然ノ勢ニ由テ壓制セラレサル時ニアラサレハ、國家敢テ自ラ手ヲ下シテ、此ノ如キ學問ヲ停止セサルヲ要ス、何者國家學問、上ニ手ヲ下スノ方法、若良善ナリカバ、ハル時ハ、當ニ學問ノ弊害ヲ除去スル能ハサルノミナラス、却テ妨害スルト多クレハナリ、○但一若一個人、或ハ會社ノ學業、實ニ公衆ノ為ニ妨害アルト明瞭トナルニ至リテハ、國家速ニ從來ハ、



保護勸導ヲ止ムルハ固ヨリ國家ノ全權ニ在リ  
 若此ノ如キ學業ヲシテ、愈盛ニ國家ノ法制ヲ毀  
 損シ、公衆ノ安寧ヲ妨害セシメレカ為ニ、國家ヲ  
 シテ己カ讎敵ニ均レキ學業ノ勸導ニ、公財ヲ給  
 セシメント欲スルノ說アレハ、是大ナル謬見ナ  
 リ、

○  
 『第五』國家ト技藝

クレスト(按)通常建築、雕像トノ  
 圖畫、音樂、詩歌等ヲ云ス、

關係モ、亦學問トノ關係ニ相同シ、故ニ國家ハ敢  
 テ技藝ノ勸導上ニ、關スルヲ得ス、唯技藝ニ係レ  
 ル事務ヲ掌ルヲ得ルノミ、凡、技藝ノ世事上ニ利

害アルハ學問ニ比スレハ更ニ少シト雖、其功用  
 ノ輒ク人情ヲ感動シ、及其體裁ノ美麗ニシテ、速  
 ニ人心ヲ娛ミシムルハ、遙ニ學問ニ優ル、○建築  
 雕刻ニ係ル物ハ、敬神禮拜ニ於テハ、天神ヲ畏敬  
 信仰スル赤心ヲ表スルニ足リ、國事及世事ニ於  
 テモ亦甚佳麗ナル裝飾トナリ、及人心ヲ感激セ  
 シムルニ足ル、○國家ハ先自己ノ形貌ヲ佳麗ニ  
 セカル可ラズ、故ニ技藝ヲ以テ緊要トナスハ、固  
 ヲリ當然ノ理ナリ、(按)蓋王居、政堂、城郭、堡寨等皆  
 威ヲ輝カスニ足ラサ  
 ルヲ以テ斯云フ故、



神道ハ技藝レリギエーセ、クニスト〔按〕神道ノ祭典等アルニ方リテ、惟ス所ノ音樂演戲ノ類ヲ云フ故、既ニ數百年前ニ於テ、大ニ進歩シテ、極盛ノ地位ニ至リタリ、然ルニ國家ノ技藝〔按〕國家威典等アルニ方リテ、惟ス所ノ音樂演戲ノ類ヲ云フ故、猶再考スヘシ、モ、亦太古希臘及羅馬ニ於テハ、神道ノ技藝ト同レク、之ヲ敬重シテ、其進歩ニ心ヲ用ヒシカニ、其後ニ至リテハ、大ニ衰廢セリ、然ルニ近今再ヒ之ヲ興復セント欲スルニ至リ、且、國家及技藝者、次第ニ此技藝ノ華麗ナラサル可ラサル所以ヲ悟ルニ至レリ、

往古雅典〔按〕希臘一邦ノ演戲ハ、政教ヲ裨補スルヲ旨トシ、テ催スル者ナリキ、然ルニ近今ノ演戲ハ、殆唯私人ノ歡樂ニ供スルヲ旨ト為スニ過キス、是故ニ方今邦國演戲ト稱スル所ノ演戲アリト雖、其實ハ決シテ然ラス、唯稀ニ國事ニ益アルノミ、○方今邦國ノ大祭アルニ方リテハ、野鄙猥雜ナル音樂演戲等甚盛ニシテ、真正ノ音樂演戲ハ、殆之ニ壓倒セララル、勢ナリ、衆民ヲシテ偉功盛業ヲ追想セシメント欲セハ、之カ為ニ、演績標ニトヌメヲ建立シ、或ハ巨大佳麗



ノ造營ヲ為スニ如クハナレ、去レ其偉功盛業ヲ不  
 朽ニ傳ヘンカ為ニハ、國家必、旌績標ヲ建立シ、或  
 ハ巨大佳麗ノ造營ヲ為ス、實ニ緊要ナリト云  
 フノ理ニ至リテハ、今時猶未、文明世界ニ徧ク明  
 瞭トカクニ至ラズ、○按文明國ノ人民ト雖未悉  
 此理ヲ悟ルニ至ラズト云  
 ナリ、

○ヤーン獨乙人、一千七百七十八年ニ  
 生レ、八百五十二年ニ死ス、著書  
 ニ云「各種ノ旌績標ハ大業及其賞譽ノ表率ナ  
 ルト、

第九款

國家ト人民學校トノ關涉ダレ、ス  
 ウンド、ギ、ホ  
 ルク、ス、ミ、レ、



○第一 幼童ハ、天然ニ其父母若クハ其親戚ノ管轄

ニ属スル者ナレハ、是等ノ徒、宜レク最初ノ教育  
 ニ心ヲ用ヰ可キ、固ヨリ當然ニシテ、國家ハ、敢  
 テ最初ノ教育ニ心ヲ用ヰルノ責ヲ負荷セ、但  
 貧窮ナル孤兒ノ如キハ、國家若クハ邑ニ於テ之  
 ヲ教育スル、トニ心ヲ用ヰサル可ラスト雖實ニ  
 父母親戚ノ教育ニ摸倣スルハ、最モ難クシテ、遠  
 ク之ニ及、ト能ハス、唯國家若クハ邑ニ於テ、實ニ



綿密ニ意ヲ用ヰ、深切ニ教育スルハ、稍父母親戚ノ教育ニ類似スルヲ庶幾ス可シト雖、實ニ全ク之ヲ模倣スルハ、決シテ能クシキニアラス、○蓋父子相愛シ、血肉相慕ヒ、親戚相親ムノ志情ハ、實ニ特殊ニシテ、國家ノ制度ト雖、決シテ之ニ模倣ス可ラサル者ナリ、

往古斯巴爾達（按希臘ニ於テハ、幼童七歳ニ屆ハ、必父母ノ手ヲ離レテ、官府ノ教育ヲ受クル制度ナリシカ、蓋當時斯巴爾達國ノ政權、頗衰頽セシカハ、民人ヲシテ強テ身命ヲ國事ニ拈タシム

ルニアラサレハ、政權復盛強トナル能ハサルヲ慮リテ、此ノ如キ制度ヲ立テシナリ、而シテプラトシテ、（按希臘ノ碩學紀元前四百二十九年ニ死ス、モ亦大ニ之ヲ稱譽セシト雖、決シテ良善ノ制度ト云フ可ラス、○佛國一千七百九十三年、寬政ニ立テレ議會ニ於テ、ミシスル、レペルナリ、一千七百六十年ニ生佛國顛覆黨巨モ亦是ニ類セル制度ヲ立テ、國家其權ヲ以テ、國內ノ幼童ヲ教育スハキノ議ノ起セリ、是ニ於テ、ロベスピエールモ亦大ニ之ヲ讚美レテ、ミシスル、レペルチーノ此ノ如キ議ヲ起セル



ハ、蓋人ノ聖靈ノ致ス所ナリト云ヘリ(按) 例國顛  
 於テハ、神道ヲ廢滅シ、真神ヲ蔑如シテ、人ノ聖靈  
 ノ以テ神ト為セリ、故ニ此ノ如ク云ヒレナリ、  
 凡、此議ニ從ヘハ、滿十、二歳ニ屆ハル男子、滿十、一  
 歳ニ屆、レ、ル女子ハ、悉皆公有ノ教育館ニ入ラレ、  
 ハ、公費ヲ以テ、之ヲ同式ニ育成スルヲ、最緊要ト  
 為セリ、蓋親戚ヲ以テ彼同一(例) 國顛覆党ハ、持ニ  
 萬民同一ト云ヘル一トヲ主張シテ、絶テ差異ナカラ  
 利財產等ノ悉皆同一トナレテ、絶テ差異ナカラ  
 欲レタリ、ノ神ノ犧牲ト為スヲ緊要ト為セレナ  
 リ、(按) 天下兆民ヲ悉皆同一ナラシムルヲ旨トシテ、各人、  
 各親戚ノレテ、敢テ各種ト私事ヲ為サ、然レハ、議  
 各親戚ノレテ、敢テ各種ト私事ヲ為サ、然レハ、議

會遂ニ亾滅スルニ至リテ、此議モ亦共ニ亾滅シ  
 タリ、

一身ノ自由權及父子親戚共ニ私事ヲ營ムノ權  
 利ハ、全ク天神賜フ所ハ權利ナリ、ハ、國家ノ之ヲ  
 保護スルハ、其當然ノ義務ナルニ、國家却テ自ラ  
 此權利上ニ手ヲ下レテ、之ヲ制セント欲スルハ、  
 大ニ國法ノ理ニ背戾スル者ニシテ、其弊害モ亦  
 少カラズ、唯時アリ、父母親戚、其幼童ノ教育ニ從  
 事スル能ハサルコトアル歟、若クハ之ニ從事スル  
 コトヲ怠ル時等ニ於テハ、國家自ラ是等幼童ノ教



育ニ心ヲ用ヰルト甚緊要ナルカ故ニ此事ニ於テ、當然ノ權利ヲ有スト云フ可シ、

○  
〔第二〕但近世ニ至リテハ、國家公衆利益ノ為ニ、教育ノ一端ヲ掌ルトナリキ、凡、中古ノ世ニ於テハ、學校ハ全ク教會ノ管轄セル者ナリレカ、次第ニ國家ノ管轄ニ歸シ、加之、輓近國家漸ク勸學ニ心ヲ用、判力ヲ盡シ、カ故ニ、遂ニ學問上ノ大權カヲ握ルニ至リレカ、教會ハ遂ニ之ヲ防拒スルヲ能ハナリキ、蓋、輓近ニ至リテハ、教會甚勸學ノ務ヲ怠リ、且、學校ヲ以テ獨、神道ノ用ニ供スヘ

キ者ト為レタレハナリ、而テ此事ニ於テハ、波羅特士旦教會ノ罪モ、亦決シテ加特力教會ニ讓ラサリキ、○教會教育ノ事ヲ掌リシ間ハ、全ク人民、學校ノ教育ヲ怠レリ、故ニ輓近國家此事ヲ掌ルニ及ヒテ、始テ此學校ノ教育ニ心ヲ用ヰルトナレリ、但、學者、學校ヲヒールノ教育ノ如キハ、教會既ニ自ラ心ヲ用ヰシト雖、實ニ神道ヲ以テ、大ニ之ヲ束縛限制レタリヤ、  
○國民學校ノ旨トスル所ハ、幼童ヲ教育シテ、實ニ人タルニ恥チサル者トナシ、邦國人タル者トナ



及敬神人タル者ト為スヲ要ス、但當然父母親  
 戚ノ教諭ニ屬スルヲ及、特ニ某一職分ニノ關  
 係スルヲハ、決シテ人民學校ノ管掌スル所ニア  
 ラス、人民學校ハ唯國民一般互相ハ為ニ必要ナ  
 ルヲ以テ、其教諭ス可キナリ、○方今開明ノ世ニ  
 在リテハ、諸般ノ事、頗精密ニ涉ルカ故ニ、各人必  
 其國語ヲ誦讀シ、書記シ、及日常平易ノ算計ヲ為  
 レ得ルヲ、甚緊要トナリ、而テ各人は是等ノ事ヲ為  
 スヤ、必容易輕快ナラサレハ、決シテ今日ノ用ヲ  
 濟スニ足ラズ、蓋此等ノ事ハ、即人民學校諸學科

ハ基礎トナリ、及後來諸大學科ニ於テ、人智ヲ琢  
 磨スルカ為ニ、最要ナル預科トナルヘキ者ナリ、  
 是故ニ國家若クハ邑ハ、人民學校ニ於テ、幼童ヲ  
 同一ニ教育シ、而テ至賤ノ者ト雖、共ニ教育ヲ施  
 シテ、遂ニ其才智ヲ育成スルハ、政ヲ放擲スルヲ  
 得ス、○國家ハ此ノ如キ事務ヲ以テ、決シテ再ヒ  
 教會ニ委託スルヲ許サズ、何者、上ニ舉クル所ノ  
 誦讀、書記、算計等ノ如キハ、固ヨリ神道ニ係レル  
 一ニアラスレテ、全ク世事ニ屬スルヲ、實ニ明瞭  
 ナレハナリ、往昔教會ニテ、專ラ教育ノ權ヲ握リ



レ頃ニハ、幼童ノ才智ヲ育成スルヲ旨トセス  
 テ、特ニ幼童ヲシテ、専ラ教會ノ事ニ練習セシム  
 ルヲ旨トシ、或ハ之ヲ教會ノ用ニ役セシムルヲ  
 旨トシテ、教育セシカ故ニ、幼童ノ才智大ニ發達  
 スルヲ得サリシニ、輒近國家專ラ人民學校ノ教  
 育ニ、心ヲ用サシムルニ至リレヨリ以來ハ、誦讀、書記、  
 算計ノ初科、徧ク開明シテ、幼童ノ才智大ニ發達  
 スルヲ得ルニ至レリ、是蓋是等ノ初科、決シテ神  
 道ニ係ルコトニアラスシテ、全ク世事ニ属スルコ  
 トナレハナリ、○但、人民學校ニ於テ、幼童ニ誦讀書

記ヲ教授センニハ、唯衆民ニ有用ナル淺近平易  
 ノ事理ヲ以テス可シ、凡、幼童ノ心志ヲ快活優美  
 ナラシムルニ足ルヘキ事、幼童ヲシテ正善ノ德  
 ノ愛慕シ、父母ノ國ヲ親愛セシムルニ足ルヘキ  
 事、日常平素ノ事ヲ辨識セシムルニ足ルヘキ事  
 及ヒ事ノ虚實ヲ識別スルノ眼力ヲ得セシムル  
 ニ足ルヘキ事ノ如キハ、皆人民學校ノ教育ニ於  
 テ、主旨トスル所ナリ、但シ大學科ノ一部分ニ属  
 シテ、幼童ノ了解レ難キ事及、徒ニ幼童ヲシテ尊  
 大ノ心ヲ生セシムル事等ハ、決シテ教授ス可ラ



ス、地理學、數學、及、格物學等ノ一部分ニ屬シテ、專  
 ラ議論ニ涉レル事等ハ、決シテ教授スヘカラス、  
 人民學校ハ、尋常一樣ノ實事ヲ教授スルヲ以テ  
 主旨ト為ス可シ、決シテ學者ノ議論考究ニ屬ス  
 ル事ヲ、教授ス可ラス、○獨乙及、瑞士ノ如キハ、人  
 民學校ニ心ヲ用ヰル、實ニ他各國ニ超ユト雖モ、  
 惜イ哉從來ノ教授、適度ニ過キテ、漫ニ高尚ヲ貴  
 ムカ故ニ、人民學校ニ於テ、教育ヲ受ケシ生徒等  
 ノ心、自ら驕慢ヲ生シ、動モスレハ、工人或ハ製造  
 人トナリテ、生計ヲ營ムヲ嫌ヒ、或ハ大ニ之ヲ恥

ルニ至リ、又ハ貴キ(縱令野鄙ナルカ如シト雖モ)  
 農業ヲ避ケテ、寧、貧賤ナル書吏タルヲ甘ニスル  
 ノ弊害ヲ生レタリ、○昔時ハ幼童ノ教導、甚、不及  
 ナルヲ歎セシ、一アリシニ、今時數國ニテ施ス所  
 ノ教導ハ、全ク相反シテ、甚、過度ナルノ弊ヲ生シ、  
 大ニ幼童ノ育成ヲ害スルニ至レリ、例ハ、猶幼童  
 ヲ養フニ、健康ノ為ニ益アル淡薄ノ常食ニ代フ  
 ルニ、高價ナル美食ノ零碎ヲ以テシ、遂ニ幼童ノ  
 脾胃ヲ損敗スルカ如ク然リ、  
 但、學校ノ教育ハ、啻ニ才智ノ育成ヲ以テ足レリ



ト為ス可ラス、必又心志ヲ優美正善ニ遷スヲ要ス、人民學校ノ教育ハ、童ニ人智勝レタル人物ヲ造出スルヲ以テ足レリト為ス可ラス、必又幼童ノ心志ニ信神ノ種子ヲ播植シ、及神道ヲ尊敬シ、正徳ヲ愛慕スルノ情意ヲ起スヲ要ス、○才智ヲ育成スルハ、國家ノ專ラ心ヲ用ヰヘキ所ニシテ、心志ヲ正善ニ遷スハ、教會ノ專ラ心ヲ用ヰヘキ所ナリ、而テ此事ハ獨リ教會ノ最モ長スル所ナリ、父ト母ト家内ニ於テ、相俱ニ子女ノ教育ニ從事スルカ如ク、國家ト教會ト、相俱ニ徧ク幼童ノ教

育ニ從事スルヲ固ヨリ當然ナリ、蓋教國ニ會相協同シテ、教育ニ從事スルハ、實ニ良好ナル教育ヲ施スニ足リト云フ可シ、然ルニ若全ク教國ニ會ノ協同ヲ止ムルヲアルハ、遂ニ當然相合セル事ヲ壞裂スルノ恐ナキ能ハスレテ、其害タルヤ、家内ニ於テ父母相協同シテ、子女ヲ教育セザルノ害ト、全ク相同シカル可シ、○教會ノ專ラ人民學校ヲ管轄スルノ權ヲ奪ハント欲スルノ論、輓近盛ニ起リシハ、殊ニ教會從來人民學校ヲ制馭シテ、自己ノ利ノ為ニ、大ニ學問ヲ束縛限制



セシニ基ク所ナレハ、決シテ理ナシトハ云フ可  
 ラス、去レテ教會ノ教育ニ關スル權力ヲ全ク奪フ  
 氏ハ、遂ニ神道ノ教育ヲ缺クニ至ルカ故ニ、決シ  
 テ良好ノコト云フ可ラス、但、教會若慢ニ神道ニ  
 惑溺シテ、學校ノ教育ヲ限制壓抑スルカ如キ弊  
 ナキヤ否ヲ監督シテ、之ヲ防制スルハ、固ヨリ國  
 家ノ主任ナリト雖モ、若、教會ノ正善ナル方法ヲ  
 以テ、盡カスルヲモ、共ニ防制セント欲スルハ、甚  
 不可ナリ、○是故ニ國家學制ヲ總管スルノ權力  
 ヲ握ルハ、固ヨリ當然ナリト雖モ、就中神道ノ事

ニ就テハ、教會ヲレテ、正善ナル方法ヲ以テ、盡力  
 セシムルヲ、最モ緊要ナリ、  
 人民學校ハ、殊ニ幼童ヲ教育シテ、之ヲ真誠ハ人  
 タラシムルヲ以テ、主旨ト為カ可シ、去レテ、幼童徒  
 ニ真誠ノ人トナリ得ルト雖モ、若、其邦國人タル  
 ノ道ニ背ク氏ハ、甚、可ナラサルヲ以テ、幼童ヲレ  
 テ、必、其邦國人タルニ堪ル者トナラシムル方法  
 ヲ以テ、教育ス可シ、幼童ヲレテ國家ノ為ニ有用  
 ナル人トナラシム可シ、但、此目的ヲ達スルハ、實  
 ニ容易ナルコトニアラスト雖モ、凡、國俗ノ良否及



國勢ノ盛衰等ハ、殊ニ其民人ノ幼時ニ於テ、發起  
セル愛國ノ志情ニ根サス者ナレハ、國家ハ務テ  
此目的ヲ達スルヲ以テ、最急務ト為スヲ要ス、○  
又基督教ヲ奉スル各國ニ於テハ、幼童ニ基督教  
ノ道德ヲ示スヲ以テ、神道教育ノ基本ト為レ、而  
テ常ニ此事ニ心ヲ用井ルヲ要ス、去レテ教會ナル  
者ハ、此教育ヲ施スニ就テ、必自派ノ旨意ヲ專一  
ニ主張スル者ナリ、是故ニ或ハ教派ノ異ナルニ  
從テ、人民學校ヲ分テル國アリ、或ハ唯一學校ニ  
於テ、神道ノ教導ヲ宗派ニ從テ分テル國アリ、而

テ是等ノ一ハ、各國教育方法ノ便宜ト、其他種々  
ノ景況トニ關係スル者ナリ、但此二様ノ制度ニ  
就テ、可否ヲ定決スルハ、全ク國家ノ權ニ在ルハ  
キ、固ヨリ論ナク、且、國家ハ何ノ制度ニ拘ハラ  
ス、常ニ心ヲ用井テ、教會ノ互ニ其宗派ヲ主張シ、  
遂ニ相敵視スルニ至ルヲ防制スルハ權アリ、  
人民學校教師ノ負數、近年ニ至リテハ、大ニ増加  
セリ、是實ニ好徵ト云フ可シ、蓋許多ノ生徒アリ  
テ、教師足ラサルキハ、教導決テ十分ナル能ハナ  
レハトリ、且、國內ノ幼童ヲシテ、悉皆下等小學ノ



教導ヲ受ケレメント欲セハ、必ス許多ノ學校ヲ立  
 テ、及、許多ノ教師ヲ置カスニハ、アル可ラス、獨乙  
 及、瑞<sup>ス</sup>士ニ於テハ、方今專ラ下等小學ノ教導ニ心  
 ヲ用<sup>シ</sup>、又佛國英國、及其他ノ各國ニ於テモ、漸ク  
 此事ニ心ヲ用<sup>シ</sup>、<sup>シ</sup>至レリ、○人民學校教師ノ  
 負數增加セレハ、教育ノ為ニ大ニ利アリト雖モ、  
 此利ト共ニ又一弊害生<sup>シ</sup>、<sup>シ</sup>、蓋近令師範學校  
 一<sup>レ</sup>ニナ<sup>リ</sup>、教導ニ於テ、動モスレハ、人民學校ニ不  
 用ナルノミナラス兼テ用<sup>シ</sup>、可ラサル高尚ノ學  
 科ヲ以テセシカハ、人民學校ノ教師トナルヘキ

生徒多クハ此猛烈ナル飲料ニ堪ユル能ハスレ  
 テ酔倒シ、頻ニ慢心ヲ生シ、隨テ愈人民學校ニ緊  
 要ナラサル大學科ヲ講求セントスルノ志情ヲ  
 起ス、トナレリ、是ニ於テ、人民學校ハ、其必要ナ  
 ル節<sup>ノ</sup>、<sup>ノ</sup>及、健全トシテ、失テ、遂ニ過當ハ者トナル  
 ニ至レリ、○教師等多クハ其職務ノ卑ウレテ、且  
 限制セラル、所アル(其實ハ緊要ニレテ、且、貴重  
 スヘキ者ナリト雖モ)ヲ嫌ヒ、且、己カ學識ト其受  
 クル所ノ俸金ト、甚懸隔スル所アルヲ歎スルニ  
 至リ、加之、教師等動モスレハ、自負ハ心ヲ生シ、而



テ教育ノ新方法ヲ創始シ、天下ノ形勢ヲ一新ス  
ルハ、特ニ我輩ノ任スル所ナリト云フニ至レリ、  
實ニ二三ノ國ニ於テハ、人民學校ノ教師、專ラ騷  
擾ノ基ヲ開キ、加之、時アリテハ顛覆一新ノ基ヲ  
モ開キレテ、亦絶テナキニアラス、去レ人民學校  
ノ教師、高尚ナル學科ヲ講求スルカ為ニ、時アリ  
テ非分ノ事ヲ謀ルカ如キヲアリト雖モ、其弊害  
ハ尚少ウレテ、輓近教師ノ負數増加セシカ、為ニ  
人民學校ノ面目ヲ一新シ、下等民人ニ至ル迄之  
ニ由テ頗開明ニ赴キタル功益ハ更ニ大ナリ、然

ルニ世論或ハ大ニ此弊害ヲ憂ヒテ、學校ノ事ハ、  
寧昔時ノ如ク教徒ノ全權ニ任シテ、束縛限制ノ  
法ヲ用井レムルニ如カストナスト雖、恐クハ大  
ナル謬見ト云フ可シ、凡ソ開明進步ノ事ハ、其氣勢  
頗ル盛強ナレハ、其間亦自ラ弊害ノ生スルヲ免  
ル、能スト雖、多クハ自然ノ勢ニ鎮壓セラレテ、  
遂ニ消滅スル者ナリ、○但ニ國家ハ實ニ人民學校  
教師ノ請願中ニ於テ、理ニ當レル者ハ、宜シク許  
容レテ、之ヲ准ス可シト雖、若理ニ當ラザル者ハ、  
以テ之ヲ拒絶スルハ固ヨリ當然ナリトス、○



○普魯斯國ハ人口一千五百万アリテ、學校教師三万人アリ、即、人口五百人ニ一人ノ比例ナリ、瑞士ノ一二邦ニ於テハ、教師ノ比例尚更ニ多シ、

○〔第四〕國家ハ幼童ハ父母ニ強テ、幼童ヲ學校ニ送リシムルノ權アリ、蓋、天下ノ衆童悉皆人タル者ノ知ルヘキ事、國民タル者ノ解スヘキ事、及、神道ニ屬スル事ヲ學習シテ、賢良ノ臣民トナルハ、國家ノ為ニ甚、必要ナルヲ以テナリ、但、國家ノ此權ヲ握ルヤ、唯此理ニ由ル者ナレハ、決レテ此外ニ

其權ヲ施ス可ラス、即、國家ノ此權ヲ稱シテ、強、使、就、學、ノ權ヲシテ、但、國家ノ權ヨリ言テ、立テスレテ、臣民ノ義務ヨリ言テ、之ヲ就、學、義務リヒトシテ、稱スレハ、更ニ大ニ善シ、○父母若、既ニ其子女ノ教育ニ心ヲ用ヰテ、之ヲ私學ノ教師ニ托スレハ、國家決シテ此事ニ心ヲ用ヰルヲ要セサルカ故ニ、敢テ強、使、就、學、ノ權ヲ施行ス可ラス、但、父母若、懶惰ニシテ、絶、テ其子女ニ小學ノ教育ヲ受クシメサルハ、於テハ、國家必、強、使、就、學、ノ權ヲ施シ、父母ヲシテ、強、テ其子女ヲ人民



學校ニ送ラレノ、以テ子女ノ受教ノ權利ヲ保全  
 スルヲ固ヨリ當然ナリ。○臣民悉皆就學ノ義  
 務ヲ負フハ悉皆護國ノ義務臣民タル者、國家危  
 亂ノ時ニ方リテハ、必、護國軍ニ入テ、國土ノ防  
 衛ニ從事スルノ義務ヲ云フ、護國軍ノコトハ、卷之七  
 第七款ニハ負フハ理、及、悉皆公事自由ノ權ホ  
 爾ヲ預スルハ自由權臣民此自由ヲ得ルヤ、其國  
 既ニ全ク文明開化ナラサル可ラスハ有スルハ  
 理、全ク相合ス、

○普魯士ノ國憲第二十一章ニ云、父母及其代  
 人ハ、其子女、或ハ托セラレタル孤子ヲシテ、必

人民學校ノ規則ニ遵テ、教導ヲ受ケレメサル  
 可ラハト、○北亞米利加ニ於テ始テ強使就學  
 ノ權ヲ緊要ナル者トナセリ干尼底吉按亞米  
 利加合  
 衆國ノ一ニ於テ、一千六百五十年慶安ニ制定  
 三年  
 スル所ノ憲法ニ云、父母タル者ハ、必、其子女ヲ  
 學校ニ送ラサル可ラサルノ義務アリ、而テ父  
 母若、此義務ノ施行ヲ怠ルハ、則、罰金ヲ命ス  
 可シ、但、父母猶俊メス、此義務ヲ施行セカレハ、  
 ハ、政府強テ、其子女ヲシテ、學ニ就カレハ、ルハ  
 權アリト、但、馬沙諸國按亦合衆  
 國ノ一部ニテハ、既ニ一



千六百四十八年慶安元年ノ憲法ニ強使就學ノ權ヲ載定レタリ、○然ルニ英國ニ於テハ此權利ヲ用ルルヲナレ、且佛國ニ於テモ、敎部ニステルギゾウ一千七百八十七年ニ生ルハ、國家ノ此權利ヲ握ルヲ以テ不可ト為セシメ、○獨乙及瑞士ニ於テハ、必ス此權利ヲ用ル、蓋此兩國ニ於テ、敎育ノ徧ク衆民ニ及フハ、國家殊ニ此權利ヲ握ルカ故ナリ、

近今人民學校ノ敎育ニ於テ、生徒ニ學費ヲ償フヲ免ルスノ法ヲ立テタル國、儘之アリト雖、此法

決シテ緊要ト為ス可ラス、加之、人民學校ノ為ニ却テ害アリトス、凡、父母タル者其子女ノ為ニ學費ヲ償フハ、固ヨリ當然ノ理ナリ、但、第二ニハ國家及、邑モ、亦學費ヲ償フノ義務ヲ負ハサレ可ラス、蓋、天下ノ幼童悉皆敎育ヲ受クルハ、國家ノ為ニ甚緊要ナルヲ以テ、國家及、邑等、公費ヲ以テ學校ヲ建テ、其需要ヲ給ヒ、并ニ敎師ニ與フル俸金ノ數分ヲ公金ヨリ出シ、以テ父母ノ費用ヲ減スルヲ要ス、○但、父母ヲヒテ其子女ノ為ニ學費ヲ償ハレハ、ル所ハ、學校ノ為ニ大利アリ、蓋、此ノ如



かなルキハ、當ニ當然ノ理ニ合スルノミナラス、  
 猶且、父母タル者、自ラ、學校ノ隆盛ヲ欲スルニ至  
 ルハ益アリ、何者、人多クハ自己ノ金ヲ費サ、ル  
 事ニハ、心ヲ用ヰスト雖、自己ノ金ヲ費セル事ニ  
 ハ、厚ク心ヲ用ヰテ、其事ノ成全ヲ願フハ、人ノ常  
 情ナレハナリ、○但、父母若、貧窮ニレテ、學費ヲ償  
 フノ力アラサレハ、國家若クハ邑ニ於テ、之ヲ償  
 ハサル可ラスト雖、其力アル、父母ニモ、猶此義務  
 ヲ免ルスカ如キハ、決シテ正理善道ニ合スト云  
 フ可ラス、

私立ノ人民學校ト雖、國家必之ヲ庇護ス可シ、決  
 シテ之ヲ障碍ス可ラス、何者、私立學校モ亦、國家  
 ノ教育ヲ裨ク、及其教育費用ヲ補フノ功アルハ  
 ナリ、○但、國家ハ、必、嚴ニ私立學校ノ情勢ヲ監視  
 シ、此學校ノ會社ヲレテ、決シテ幼童ハ心志ヲ損  
 欺ヒ、及、公衆ノ妨害ヲ生セシム可ラス、而シテ  
 此會社若、是等ノ所行ニ由テ、國家ニ敵スルノ機  
 現ハルレハ、國家ハ直ニ其利刀ヲ以テ、此ノ如キ  
 暴惡ノ根株ヲ裁斷シ、以テ之ヲニテ增長スルヲ  
 得サラシム可シ、○エースイテン  
 (按) 加特力教  
 一會社ノ



學校ハ、殊ニ此ノ如キ暴惡ヲ以テ、國家ニ敵スルノ禍心ヲ萌生スルコトアリ、是故ニ此學校會社、若シテ故ラニ真理ニ背キ、幼童ヲ勸誘シテ、暴惡ヲ謀ラント欲スルコトアラハ、決シテ之ヲ宥恕セサルヲ要ス、

○普魯士ノ國憲第二十二章ニ云、教授ニ従事シ、及ヒ學校ヲ創立スルハ、各人ノ自由ニ任ス、但シ其人自己ノ行狀、及ヒ學術共、人ノ師表タルニ足ル可キ所以ヲ、預、其關係ノ官司ニ證セサル可ラスト、

○

〔第五〕人民學校ノ下級ニ於テハ、未、學問ノ自由ヲ與フ可ラス、凡、下級ニ於テ學習ス可キ事ハ、天下萬民普ネク知ラサル可ラサル要件ノミナリ、故ニ其教師タル者、全權ヲ以テ教授ス可シ、敢テ生徒ヲシテ、其可否ヲ論セシム可ラス、加之、教師ト雖、決シテ各自ノ見ヲ以テ教授スルヲ許サス、必、各教師相共ニ國家ノ指令ニ従テ教授スヘキコト、固ヨリ當然ナリ、○是故ニ下級ノ教授ニ就テハ、必、預定セル學規アリテ、必、之ヲ遵守セサル可ラス、決シテ各教師自ラ教授ノ規制ヲ定ムルヲ許







テ學校ニ於テ、其業其學ニ練達セシ確證ヲ取ルノ權アリ、故ニ本人若シ曾テ其業其學ヲ教授スル所ノ公共學校（按）公共ノ為ニ開キ於テ、教育ヲ受ケレトナケレハ、必ス之ヲ選任セサルヲ固ヨリ當然ナリ、其他縱令民人ノ私業ト雖、唯其業ニ練熟セシ者ノミニ、其施行ヲ許ス、公衆利益ノ為ニ緊要ナレハ、國家ハ必、本人ノ其業ニ練熟セル確證ヲ取ルノ權アリ、但、是等ノ時ト雖、亦規律外ノ處置ヲ為ス、全ク之ヲナキニハアラス、何者人々其業ニ練熟スルハ、決シテ唯學校教授ノ一方法

ニ由ルニ止マラス、或ハ他ノ方法ニ由ルモ亦之アル者ニシテ、縱令其方法ハ如何ナルモ、唯其業ノ練熟ヲ求ムルヲ緊要ナレハナリ、

〔第二〕上等及中等ノ學校ハ、分テ三種トナス、

〔甲〕各殊ノ職業學校（バツソシダレ、バニ） 即チ農人ノ

教育ヲ旨トスル所ノ農業學校、及エ工人ノ教育ヲ

旨トスル所ノ手工學校ノ如キ是ナリ、而シテ是

等ノ學校ハ、殊ニ第四等身分ノ徒（ヒール、タンド、按） 殊ニ

農民并ニ工商ニ從ハ、為ニ設立スル所ナリ、故ニ

其他ノ徒ハ、唯其學科ノ大旨ヲ講習スレハ、足レ











一ハ農人及徒弟等ヲレテ、學習ニ由テ、遂ニ自己ノカラ以テ大ニ實業ニ長セシム、是故ニ國家此職業學校ヲ創立シテ、自由ニ入學ヲ許スルハ、許多下等人民ノ開明進歩ヲ補益スルヲ、實ニ少カラス。

○**第四** **工藝學校**ト稱スル者ハ、殊ニ**學實學校**、**レ** **ル** **ア**

ギムナシレクム 〔接專ラ〕 學問上ノ學習ヲ旨トセル學校ト、專ラ實驗上ノ學習ヲ旨トセル學校ヲ合併セル者ナリ、故ニ**衆藝學校**、**レ** **ル** **ア** ボリテクニ 及**術藝學校** ア カ デ ミ ト レ ル 等ニシテ、更ニ高尚ノ學術ヲ教授スル所ナリ、

**學實學校**及**衆藝學校**ニ於テハ、生徒ヲレテ、專ラ**工作製造**ノ實際ニ功益アル學問ノ深理ヲ研究セシム、即**數學**、**測量學**、及**物理學**、是ナリ、而是等ノ學科ヲ、**器械學**、及**化學**ニ適用スルハ、即此學校學問上ノ學習ニ於テ、遂ニ達ス可キ目的ト為ス可ク、又**工藝沿革**ノ**歴史**ヲ習讀スルハ、**實驗上學**習ノ基本トナル可キ者ニシテ、**圖畫**ノ術ハ即此學校ノ要科ナリ、加之、此學校ノ生徒ヲレテ、今時ノ**語學**ニ習熟セシム可シ、但古語學ニ習熟セシムルヲ要セス、○此學校ノ教導ニ於テハ、實ニ實



際ヲ以テ、目的トスルヲ怠ル可ラサルヲ固ヨ  
 リ論ナシ、去レテ學問上ノ教導ハ、最モ緊要ナルヲ  
 以テ、此教導ニ施スニ就テ、決シテ遺漏ナカル可  
 ク、且、此教導ヲ施スニハ、之ヲ直ニ實際ニ試験ス  
 ヘキ方法ヲ以テス可ラス、實ニ學問上ノ方法ヲ  
 以テ、生徒ヲシテ、高等工藝學ヲ自在ニ活用スヘ  
 キ知識ヲ得セシムヘキハ、故ニ其後ニ至リ、生  
 徒各實際ニ從事スルニ及テ、始テ各其業ヲ異ニ  
 スルナリ、

此學校ノ上級ニ至リテハ、殆、大學ト相類似スル

所アリ、既ニ成長セル生徒ハ、自己ノ意見ニ從テ、  
 學習セント欲スル志情盛ナルカ為ニ、此生徒ニ  
 ハ、下級ノ生徒ニ許サ、ル自由權ヲ授與ス、但、下  
 級生徒ニ至リテハ、必、其教師ヲシテ、嚴ニ之ヲ管  
 制セシメ、妄ニ學習ノ自由權ヲ與ヘシム可ラス、  
 且、縱令、上級生徒ニ授與スヘキ自由權トイヘ、  
 決シテ工藝學校、當然ノ目的ヲ越ユルヲ許サズ、  
 殊ニ數學ノ教導ニ至リテハ、嚴ニ其科目ノ順序  
 ニ循ハシムルヲ、實ニ緊要ナリ、○且、教師ノ生徒  
 ヲ教導スルヤ、徒ニ講義ノミヲ用ヒ、絶テ生徒ノ







ナリ、且、此學校ニ於テ、生徒ヲシテ、往古以降數百  
 千年ノ變遷沿革ニ通曉セシムルハ、徒ラニ生徒  
 ノ知識ヲ導テ、往古數百千年前ノ地位ニ止マラ  
 シメント欲スルニアラス、此變遷沿革ニ由テ、今  
 古知識ノ開明ヲ悟ラシメ、而シテ不羈自由ノ眼  
 カヲ以テ、更ニ開明進歩ヲ營マシメント欲スル  
 カ為ナリ、○凡、今時知識ノ大ニ開明進歩セシハ、  
 其本源、全ク希臘羅馬ニ出ル、明カニシテ、宛カモ  
 神道教育ノ上進、全ク基督教ノ傳播ニ由レルカ  
 如ク然リ、是故ニ今日ノ表則トナレル古代正雅

ノ學ヲ研究スルノ徒ハ、自ラ古今世道ノ變遷沿  
 革ニ著眼シ、希臘羅馬ノ世ニ出ル、英雄豪傑ノ大  
 志ヲ繼テ、更ニ世道ノ開明進歩ヲ裨益セサル可  
 ラス、但レ曾テ希臘羅馬ノ學ニ由ラス、全ク他ノ  
 方法ニ由テ學習セル徒ト雖、或ハ其功益ヲ奏ス  
 ルトナキニシモ、アラスト雖、此ノ如キ徒ノ學識  
 ハ、決シテ完全ナル者ニアラス、故ニ真誠ノ學識  
 アル人ヨリ之ヲ視レハ、大ニ缺乏スル所アリ、○  
 凡、希臘羅馬ノ學ノ如キハ、自ラ優美正大ナル所  
 アル者ナレハ、知識ヲ開達セシムルニハ、實ニ缺



ク可ラサル者ナリ、蓋此學ハ少年ノ精神ヲシテ、  
 其年齒ニ隨テ發揚セシム、其心志ヲ振起シテ、優  
 美壯大ナラシム、及其發揚力ヲ強大ニナサシム  
 ル者ナリ、

然ルニ裏昔ハ學者、學校ニ於テ、唯古代正雅ノ語  
 學ノミヲ專一トシテ、其他ノ學ニ心ヲ用キサル  
 ノ弊アリキ、則是生徒ニ古代ノ華麗ナル財寶ヲ  
 與フヘキ學校ニ於テ、却テ之ヲ奪フ者ト云フ可  
 レ、故ヲ以テ、或ハ古學ヲシテ、絶テ今日開明進歩  
 ノ用ヲ濟スニ足ラサル虚學トナラシムルニ至

レリ、然ルニ近世ニ至リテハ、各國皆此種ノ學校  
 ニ於テ、古代正雅ナル語學ノ外、猶各其國語ヲ精  
 密ニ研究セシム、及文學ヲモ共ニ學習セシムル  
 トトナリ、加之、時アリテハ其他數學、物體理學ノ  
 如キ、實物學、并太古、中古、及新世ノ歴史ヲモ共ニ  
 教授スルトトナリキ、是故ニ今時ニ至リテハ、此  
 種ノ學校ニ於テ、諸學科ヲ以テ、少年ノ知識ヲ育  
 成スルヤ、備レリト云フ可シ、蓋今時ノ制度ノ大  
 ニ昔日ニ優ル所以ナリ、且、學識ハ、全ク整備スル  
 一甚緊要ナルヲ以テ、此種ノ學校ニ於テ、基督神



道ノ理ヲモ、兼テ亦研究セシメサル可ラス、○但、近世ニ至リテハ、或ハ教授ノ學科頗多ニシテ、少年輩、遂ニ之ヲ學習スルニ堪ヘサルノ弊ヲ生シタリ、是、真ニ憂フヘシ、今時少年ノ軀體、動モスルハ軟弱トナリ、精神、動モスレハ疲勞放曠ニ至ルハ、蓋、學習甚過度ナルニ由ルナリ、生徒ノ年齒、及其階級ニ應シテ、學習ノ規律ヲ設定シ、而シテ教師ヲシテ、常ニ其勤惰ヲ監督セシメ、敢テ此規律ニ背ク能ハサラシムルヲ要ス、決シテ自由ニ學習スルヲ許ス可ラス、必、學校ノ嚴

則ヲ設ケ、生徒ヲシテ、實ニ自重、敢勉ノ心ヲ振起セシムルヲ要ス、決シテ放恣懶惰ナラシム可ラス、○學科ハ必、綿密ニ定立シ、而シテ殊ニ本科(殊ニ拉丁語學ノ研究、及、歴史ノ學習ヲ主トス、但、希臘語學ノ研究ハ、或ハ輟ルヲ許スコトアリ)ハ、必、學習セサル可ラストレテ、決シテ生徒ノ自由ニ任スルコトナカル可シ、此學校ノ教師及、生徒等、若、大學校ニシテハ、於テ、用井ル學習ノ方法、及、自由ヲ以テ、此學校ニ轉用セント欲スルカ如キハ、自己ノ為、ニ害アリ、蓋、此學校ハ、素、少年ノ氣力ヲ増大



強盛ニナスヲ目的ト為ス者ナルニ、若徒ニ大學校ノ學習方法、及自由ヲ用ヰルハ、決シテ此目的ニ達スル能ハサルハ、必然ニレテ、加之、其學業未熟ナルカ為ニ、精神遂ニ不健ヲ生スルニ至ル、故ヲ以テ他日縱令大學ノ教育ヲ受クルモ、其學業決レテ真ニ熟達スルヲ得サルヤ、必然ナリ、

第十一款 大學校レウニヘル

〔第二〕大學校ハ、其初メ唯以大利ニ於テ、僅ニ一二學科ノ為ニ、創立セレ者ナリレリ、近今ニ至リテ

ハ、諸學科ヲ以テ、人材ヲ教育スル所ノ盛大全備ノ學校トナレリ、而テ獨乙國ニ於テハ、殊ニ然リトス、是故ニ其初ニ在リテハ、唯法ヲ以テ結合セラル學社タルニ過キサリシカ、近今ニ至リテハ、真ニ學問研究ノ大學校トナレリ、  
 凡、學問ノ蘊奧ヲ能ク研究スルニ堪ユル者ハ、既ニ學者、學校ノ業ヲ卒ヘテ、強壯ナル精神カヲ得タル、弱年生徒ニ過キサルノミ、故ニ此生徒ノミ獨、大學校ニ入リテ、大學生ニトツテトナルヲ許ス可レ、是ヲ以テ大學校ニ於テハ、生徒始メテ入學



セント欲スルニ當リ、必、其業ヲ考試シテ、其優劣ヲ判シ、而テ未タ大學生タルノ學力ヲ備ヘサル者ハ、必、落第セシメ、入學ヲ許サ、ル、甚、緊要ニシテ、且、又大學校ノ品價ヲ全ウスルニ足ルト云フ可シ、○但、弱年生徒若シ真ノ大學生タルヲ願ス、唯此校ニ於テ、一二ノ講義ヲ聽聞シ、而テ其渴望セル大學ノ菓實ヲ獲ン、テ請願スル、テアラバ、其學力ノ優劣ヲ考試スルヲ要セス、之ヲ許スモ妨ケナシトス、去レ、此種ノ生徒ニハ、決レテ大學生ノ稱ヲ與フ可ラス、凡、大學生タル者ハ、徒ニ

一二ノ講義ヲ聽クニ堪ユル學力アルヲ以テ足レリト為ス可ラス、必、大學諸生徒ノ列ニ加ハリテ、實ニ大學ノ規制ヲ踏ミ、其業ニ從事スルノ學力アラスニハ不可ナリトス、○巴里ノコレデ、フランセイト云ヘル、自由高等學校フ、ラ、イ、エ、ホ、リフ、シル〔按〕尋常ノ學規ヲ用キサ、如キハ、元來ルカ故ニ、自由學校ト云フナリ、弱年生徒學習ノ為ニ、設立セル諸科學校ニシテ、實ニ高等學校タルノ品價ヲ備ヘ、且、漸ク盛大ニ赴クノ勢アリ、去レ、此學校ハ、實ニ學問ニ由テ、職業ニ熟達セント欲スル徒ヲモ、共ニ教導スル



所、大學校トハ全ク相異ナリ

○〔第二〕高等ノ學ヲ修ムルニ至テハ、精神ノ自由權ヲ十分ニ備フルヲ甚ク緊要ナルヲ以テ、大學校ニ於テハ、必ク學問上ノ獨立權ヲ與ヘサル可ラス、而テ學問上ノ獨立權ヲ與ヘンニハ、必先ク學校ニ學問會社タルノ獨立權ヲ與フルヲ要ス、然ルニ此事ニ就テハ、中古ト新世ト、其制度互ヒニ相異ナリ、蓋、中古ノ如キハ、學校ニ學問會社タル獨立權ヲ與フルヲ甚ク過キテ、學校ヲシテ遂ニ全ク不羈獨立ノ者トシ認メ、而テ之ヲ保護セリ、

去レ此ノ如キ制度ハ、今世國家ノ理ニハ、全ク相反スル者ナリ、何者、今世國家ノ權ハ、全ク合一ニシテ、諸公會社ヲ舉ケテ、盡ク其部下トナスヲ緊要ナレハ、縱令、高等ノ學校ト雖、國家嚴ニ之ヲ監督眷顧セサル可ラサレハナリ、英國ニテハ、中古以降近世ニ至ル迄、大學校ニ大ナル自由權ヲ與ヘタリシカ、此國ニ於テスニ、近令ニ及テハ、國家自ラ學校ノ大權ヲ收メ、テ、專ラ之ヲ自己ノ掌中ニ握ルノ緊要ナルヲ知ルニ至レリ、但、大地各國ニ於テハ、國家風ニ學校ヲ全ク其部下トナスノ



制度ヲ用井ルトナレリ、○中古ニ於テハ、教會  
 專ラ學校ヲ管制スルノ權ヲ握リシカニ、近令ニ  
 至リテハ、全ク此權ヲ國家ニ推讓セサル可ラサ  
 ル勢トナレリ、但諸學科中、獨リ神學科ノ如キハ、  
 特ニ教士ヲ教育スルノ科ニシテ、專ラ教會ニ關  
 係アルカ故ニ、時アリテハ國家ノ權ヲ以テ、教會  
 フレテ此科ノ事ニ關シテ、共ニ監視ノ權ヲ握ラ  
 シメ、或ハ教會ヨリ此等ノ事ヲ國家ニ請願スル  
 ニアリトス、去ル中古ノ世ニ於テハ、教會縱ニ學  
 問ノ自由ヲ限制セシカ故ニ、方今ニ至リテハ、國

家學問上ノ事ニ於テハ、甚教會ノ議ヲ聽クヲ欲  
 セサルニ至レリ、  
 大學校ノ實ニ學問會社タル獨立權ノ今仍存ス  
 ル者及、日後モ宜シク保存スヘキ者ハ、左ノ數條  
 ニ舉クルカ如シ、  
 [甲]大學校ハ、自ラ其私有物ヲ所持シ、及之ヲ掌理  
 ス、但國家ニ於テ必ス之ヲ監督ス、凡學校ハ斯自  
 己ノ私有ヲ掌理スルノ權アルカ故ニ、時アリテ  
 國家ノ財用窮乏スルニアリニ、是ニ由テ決レテ  
 其災害ノ學校ニ及フヲナク、加之、決レテ國家ノ



救助ヲ仰カスレテ、自由ニ存在スルヲ得ルナリ、  
 [乙]大學校ハ、自ラ司法ハ、權ヲ握ル、但方今ノ世ハ  
 中古ト異ニシテ、國家ハ權威大ナルヲ要スル  
 カ故ニ、學校ノ司法權モ、亦必十分ニ國家ノ管内  
 ニ屬シ、及其限制ヲ受ケサル可ラス、是故ニ此權  
 モ唯形貌上ニ存シ、其實ハ懲戒ノ權タルニ過キ  
 サルノミ、

[丙]大學校ハ、國家ヨリ尊敬ヲ受クルヲ望ムハ、  
 權(外部ニ)權カヲ施行スル能ハス、唯學問上ノ大  
 權ヲ握ルカ故ニ、國家ヨリ尊敬ヲ受クルヲ得ル

ナリ)及ヒ自己ヨリ、學士ニ榮譽ヲ與フルノ權アリ、  
 而レテ此二事共ニ、必シモ其當ヲ得ル能ハス、或  
 ハ大ニ誤レルヲアリキ、既ニ大學校ニ於テ學者  
 ノ諸品階ハ勿論、大學士ドクトノ稱號スラ、猶之  
 ヲ濫リニ學識陋劣ナル徒ニ授與セルヲ儘之アリ、  
 然ルニ國家ハ宜シク大學校ノ此ノ如キ濫賞  
 ヲ、制止スヘキヲ當然ナルニ、敢テ亦之ヲ施為セ  
 スレテ、却テ大學校ヨリ品階ヲ授與セシ學者ヲ、  
 卑シ、尊敬ヲ致スヲ欲セサルニ至レリ、是ニ於テ  
 義ト智トヲ貴ヒ、不義ト無智トヲ賤ムノ基本、遂







小科ヲ物體理學セナツキルト云フ、但大學生徒ノ中、多數ハ是等ノ學ヲ以テ、他ノ學科ニ入ルヘキ豫科トナシ、唯少數ノ生徒ノミ、此學ヲ以テ、實ニ其本科トシテ、專心ニ學習スルナリ、○智學ノ外、更ニ高尚ナル職業ノ為メニスル學科尚三類アリ、〔按〕前レ智學ト相合シ、而テ此三大學科ハ、智學ノ上ニ位スル者ナリ、即此三大學科ノ第一〔按〕前レ出セル智學ヨリ算スハ神學クテオロギトニシテ、教會ノ為ニ設ク、而テ方今開明ノ世ニ在リテ、教士ノ為ニ緊要ナル高等神學ヲ教授シ、以

テ教士ヲシテ、能ク宣道教化ノ師タルニ堪フル學識ヲ得セシムル者ナリ、○第二〔按〕即第三ハ往昔ハ法學科ユリスチシニト稱シケレド、近今ハ國家ノ事ニ關スル學問ノ範圍、甚廣博トナリシ以來、時アリテ法學科ト、狹義ノ國家學科スタクリトシキボリツイト云ハク、ルハト、イム、エニレ、〔按〕博ク國家學ト云フハ、法學ヲモ包含有スト、雖モ、茲ニハ法學ヲ除クナリ、分カチテ、〔按〕故ニ、狹義ノ國家學ト云フナリ、〔按〕類トナセリ、何者、法ノ學習ト政治ボリツイト及、〔按〕經濟スタクリトナリ、蓋、此區分ハ、實際上、司法ト政令トノ



分畫アルニ由ル者ナレバ、其方法全ク至當ヲ得  
 スレテ、或ハ所謂經濟學科ヲ、嚴ニ法學科ト離分  
 シ、或ハ經濟學科ヲ、真ニ國家學中ノ一科タルニ  
 足ラサル者トシテ、殆一技術ノ如ク視做スニ至  
 レリ、是故ニ大學生ノ中、多數ハ法學科ニ從事シ  
 テ、經濟學科ヲ學習スル者ハ、實ニ僅々少數ナル  
 ニ至レリ、○然ルニ法學ト國家學〔按政治經濟ト  
 學ヲ云フ〕ハ、元來全ク合一ナルヘキ者ナリ、是故ニ先ツ此  
 二科ノ全ク合一ナルヘキ所以ノ理ヲ知りテ、實  
 ニ之ヲ合一ナル者トナシ、然後ニ元來法ト政ト、

及司法ト政令ト相分カル、所以ノ理ニ基ツキ、  
 始メテ其學習ノ方法ヲ立ルヲ緊要トナス、但昔  
 時未、此二科ヲ區分セサル片ニ於テハ、人々專ラ  
 政學ヲ研究スルヲ務メ、法學ハ殆ト研究セサル  
 ノ弊害ナカリレニハアラサリキ、去レヒ素ト合一  
 ナルヘキ法ト政ノ學科ヲ、故ラニ區分セサルモ、  
 此弊害ヲ除去スルニ於テ、決シテ難カラサル可  
 シ、○第三〔按〕科〔即〕第四〔即〕ヲ醫學科〔即〕メ〔即〕チ〔即〕ト云  
 フ、即疾病ノ理ヲ究メ、及其醫療ノ術ヲ求ムル學  
 科ナリ、○大學校ニ於テハ、此四大科ヲ教授スル



カ故ニ、其教授ヲ受ケテ、有用ノ人トナル者ハ、即チ  
 神學士、法士、有司、醫士及ヒ教師〔按〕智学科ヲ研究  
 者殊ニ教師トナルナリ、

○〔第四〕國家自ラ學問ニ關係スルノ事務ハ、博士〔按〕

校ノ教師ナリヲ選任スルヲ以テ、最先トス、而シテ  
 國家ハ實ニ博士タルニ堪フヘキ人物ヲ舉ゲテ、  
 之ニ真誠ノ學習ヲ誘導スヘキ大任ヲ委托スル  
 ヲ要ス、○新ニ一名ノ博士ヲ舉ケント欲スルニ  
 方リテハ、必ズ在任ノ博士等ニ、其人ヲ選擇スルノ  
 權利、及、政府ノ選舉セント欲スル人物ヲ可否ス

ルノ權利ヲ與フ可シ、何者、現今學問ノ景況及其  
 要務ヲ詳悉シテ、此景況ト要務トニ適應セル人  
 物ヲ求ムルハ、此博士等ノ最モ長スル所ナレハ  
 ナリ、○去レ政府必ズ此博士等ノ選フ所ニ從ハサ  
 ル可ラスト云フノ制度ヲ立ツルハ、甚不可ナリ、  
 何者、此博士等、或ハ粗漏輕卒ニ選擇シ、或ハ親疎  
 愛憎等ノ私情ニ掩ハレテ、遂ニ選擇ヲ誤ルノ恐  
 レアレハナリ、是故ニ政府ハ必ズ博士等ノ選擇  
 ヲ自由ニ考試シテ、取捨スルヲ要ス、蓋學校ノ盛  
 衰ハ、到底教導ヲ掌ル人物ノ善惡當否ニ由ル者



ニレテ、其選舉若誤ルキハ、學校ノ大害之レヨリ  
 生レテ、遂ニ除去ス可ラサルニ至ル必然ナレハ  
 ナリ、

然ルニ大學非職教師ドブツンハトノ如キハ、教導  
 ノ官吏タルニアラス、唯教導ニ従事スルノ許可  
 ヲ受ケレ者ナルカ故ニ、其地位官吏タル博士ト  
 ハ全ク相異ナリ、是故ニ非職教師タル者、總テ緊  
 要ナル學科ノ教導ヲ掌ルニ就テハ、博士常ニ之  
 ヲ眷顧シ、及ヒ四大科ノ教導ヲ掌ルニ就テハ、本任  
 博士、オールドントリハレ、パロツル如キハ、本任博士ヲ置クト雖モ、他〔按〕四大科ノ  
 緊要ナ

ル學科ニハ、假ヒ博士ヲ置ク、例ハ、歐洲各國ニ  
 テ日本語支那語等ヲ教授スル教師ハ、皆本任教  
 師ニアラス、唯常ニ之ヲ眷顧スルヲ要ス、○博士  
 假任教師ナリ、弱年ナル學者ノ學力ヲ考試シテ、實ニ大學校ノ  
 教師タルニ堪フル者ト認許スルキハ、之ニ大學  
 校ノ教導ニ従事スルヲ許可スルモ、決シテ害  
 アラストス、是故ニ非職教師ノ教導ニ従事スル  
 ヲ許可スルハ、總テ博士等カ任スル所ナリ、凡獨  
 乙ニテハ、選舉ヲ受ケテ、博士トナルハキ人材陸  
 續輩出シテ、絶ユルトシ、蓋獨乙乙大學校ノ頗ル  
 他國ニ優リテ、大ニ人材ノ教育ニ利アル所以ナ



リ、○但非職教師ヲレテ、大學校ノ事ニ係レル會  
議ニ加ハリテ、博士ト共ニ商議セシムルハ、甚不  
可ナル制度ト云フ可シ、必、博士ヲレテ非職教師  
ヲ管督セシムルヲ善シトス、若此制度アラサル  
キハ、大ニ害アリ、

〔第五〕教師〔按〕博士及非職教導ヲ施スニ、如何ナル

方法ヲ以テ講義スルモ、必、本人ノ意ニ任スヘキ  
「當然」トリ若、國家ノ權ヲ以テ、其方法ノ規矩ヲ  
設立スルハ、甚不可ナリ、故ニ大學校ニ於テハ、必  
教導自由ノ制ナカル可ラス、○サ井ニ一獨乙人  
一千七

百七十九年ニ生シ、ハカ「凡」現今開明セル學問ヲ  
百六十年ニ死ス、カ「凡」現令開明セル學問ヲ  
書籍上ニ托セス、實ニ之ヲ教師ハ精神トナシテ、  
生徒ヲ誘導シ、而テ生徒ノ精神亦自ラ其誘導ニ  
感應スルヲ視テ、之ヲレテ愈其力ヲ振興セシメ、  
以テ遂ニ自ラ奮發セシムルヲ、甚々緊要タリト  
云ヒレハ、實ニ確切ナル論ニシテ、是等ノ事ハ、徒  
ニ書籍ニ依頼セル教導ニテハ、決レテ為レ得ヘ  
キ「」ニアラス、是故ニ大學校ノ教導ニ於テハ、必、  
教師ヲレテ、自己ハ意見ヲ以テ、生徒ニ學問ノ蘊  
奧ヲ示レテ、之ヲ誘導セシムルヲ甚々緊要ナリ、若



國家ノ權ヲ以テ、教導ノ嚴規ヲ設ケ、教師ヲシテ  
 自ラ信セサル方法ヲ以テ、教導ヲ掌ラシメント  
 欲スレハ、甚理ニ戻リテ、其功益ナキヤ必然ナリ、  
 ○蓋、大學校ニ於テ、學問習得ノ、及、教導ノ、  
 總テ人々精神ノ自由ニヨリテ成ルヲ得ヘキノ  
 之、是故ニ或ハ大學教授ノ書籍ヲ定ム、或ハ其方  
 法ヲ立ルカ如キハ、決シテ許ス可ラサルナリ、  
 去レ教導ノ自由權モ、亦他ノ自由權ノ如ク、必、限  
 制スル所ナカル可ラス、是故ニ學校ノ目的ニ從  
 テ、其自由ノ規律ヲ立テ、及、之ヲ限制スルヲ要ス、

〔甲〕大學校ニ於テ、當然設立遵守スヘキ教導制規  
 ト云フハ、殊ニ教師自由ニ、口授ヲ以テ講義スル  
 ノ制ナリ、然ルニ若、師弟ノ間、尋常一樣ノ講讀筆  
 記ヲ以テ、教授學習スルキハ、之ニ由リテ、大學校  
 ノ大學校タル所以ハ、全ク泯滅シ、唯精神ナキ機  
 械上ノ學習ニ陥リ、遂ニ生徒ヲシテ奮發勉カス  
 ルヲ能ハサラレムルニ至ル、殊ニ近今出版ノ術  
 開ケレヨリ、機械上ノ學習更ニ盛ナルニ至レリ、  
 ○是故ニ每事教師ノ自由權ヲ妨害スルヲ不  
 可ナルハ、固ヨリ論ヲ俟タスト雖モ、教導ノ方法



ハ、自由ナル口授法ヲ用井、決シテ尋常ノ講讀筆記法ヲ用井サルヲ常規ト為シ定ムルヲ要ス、是故ニ非職教師、若ク自由ナル口授法ヲ信用セサレハ、決シテ自ラ博士ニ選任セラル、ノ望ヲ興ス可ラス、  
是故ニ自由ニ口授スルノ法ハ、實ニ大學校教導ノ本則ナリト雖、此法モ亦未ダ完全ノ者トスルコト足ラサル所アリ、何者、縱令ヒ此法ヲ用井ルト雖、師弟ノ間、意ノ如ク言語ヲ接スルコトナキカ故ニ、師弟共ニ全ク其意ヲ盡ス能ハス、教師ハ唯聽講

者〔按即生徒云フ〕ノ眼色及、面貌等ニ由テ、他實ニ吾カ講義ヲ了解セルヤ否ヲ測リ知ルノミニシテ、絶エテ聽講者ノ疑問ヲ聽カサルヲ以テ、教授學習ノ事、常ニ隔靴ノ憾ヲ免ル、コト能ハサレハナリ、  
○是故ニ若ク教師自ラ生徒ヲ補助シテ、教授セシ事ヲ丁寧ニ復習セシメ、以テ誤解スルコトナカラシムルノ制アレハ、甚タ可ナリ、然ルニ獨乙ノ大學校ニハ、此ノ如キ制アラサルヲ以テ、前條ノ如キ弊害最モ著明ナリ、故ヲ以テ教師動モスレハ、自己ノ教授スル處、實ニ許多生徒ノ力ニ應セサ



ル高尚ノ事ナリヤ、將許多生徒ノ既ニ熟知セル  
淺近ノ事ナルヤ、曉得セサルニ至リ、且許多生  
徒モ亦徒ニ講義ヲ聽クヲ以テ足レリトシテ、敢  
テ復習研究セント欲スルニ至ラス、○此弊ヲ矯  
メント欲セハ、講義席ノ外ニ、猶又復習席ヲ設ケ、  
而テ此席ニ於テ、生徒ヲシテ教師ノ補助ヲ受ケ  
テ、復習セシメ、而テ師弟ヲシテ親シク言語ヲ以  
テ問答應對セシムルヲ良好トス、獨乙ノ大學校  
ニ於テハ、此ノ如キ復習席ヲ設ケ、此ノ如キ學習  
ノ方法ヲ設クルヲ、實ニ至要ト云フ可ク、而テ國

家亦是等ノ事ニ心ヲ用ヒカヲ盡スヲ要ス、但景  
況ニ隨テ、其施行ノ方法ヲ異ニスルハ、決シテ難  
カラス、

〔乙〕教導スヘキ事理モ、亦決シテ國家ノ指揮スヘ  
キヲ、ニアラス、國家ハ唯常ニ教導ニ注意シテ、決  
シテ緊要ナル學科ノ教導ヲ怠ラサラシムルノ  
權アリ、且教師ニ教導ノ自由權アリト雖之ヲ以  
テ決シテ教導セサルノ自由ト為ス可ラス、○但  
各科ノ博士ハ、自ラ欲スル所ノ事ヲ講義スルノ  
權アリ、而シテ縱令ヒ殆ト他科ニ屬スヘキ事ヲ



教授スルコトアリ、之ヲ禁止セサルヲ以テ通則トナス、獨乙ノ大學校ニ於テハ、非職教師モ亦通常此ノ如キ自由權ヲ受ク、去レハ非職教師若一  
種ノ事按一科中ノ一ノミニ熟達セシテ明瞭ナル時ニ方リテハ、本科博士ノ權ヲ以テ、非職教師ノ教權ヲ限制シテ、唯其一種ノ事ノ教授ノミニ從事セシムルコト當然ナリ、

〔丙〕教師若レ教導自由ノ權ヲ恣行シテ、大ニ學問ノ妨害ヲ生スルニ方リ、大學校ノ創立者、及其掌務者ナル國家之ニ容喙シテ、其恣行ヲ防制セン

ニハ、如何ナル時機ニ於テレ、及如何ナル方法ヲ以テスルヲ、當然ト為スマト云ヘル疑問起ルコトアリ、而テ理論上ニ於テ之ニ答フルハ、甚難カラスト雖、實際上ニ於テ、此ノ如キ時機、及此ノ如キ方法ヲ定法セント欲セハ、必先ツ綿密ニ其事情ヲ考思ヒ、及能ク自由ノ道理ニ著眼セサル可ラサルカ故ニ、頗ル難事ト云フ可シ、○教師專ラ真理ヲ究メテ、教育ヲ施スト云フハ、其中或ハ真理ニ背ケル謬見ナキ能ハス、然ルニ謬見アルニ方リ、國家直ニ其說ニ容喙シテ、之ヲ禁止セント欲



スルカ如キハ、最モ正理ニ及ストス、蓋、謬見ハ、學問研究ノ嚮導トナル者ニシテ、必、學習ノ事ト相離レ難キ者ナリ、凡、教師若、謬誤ヲ吐露スルニ方リテ、決レテ學問上ノ大權ヲ握ル能ハサル國家、其不可ヲ督レテ、之ヲ禁止セント欲ス、其、豈之ヲ正理ニ合フト為ス可ケンヤ、但、若、教師ノ學識甚、淺陋ナル可ク見ユル片ニ於テハ、國家別ニ真正ノ學識アル教師ヲ選任シテ、教授ヲ掌ラレメ、以テ真偽ノ二教師ヲシテ、自由ニ相競ハレム可シ、

○心性理學ニ於テ、諸派教師ノ議論全ク相別ル

ルコト多ク、但、國家ノ權トイヘ、人ノ謬見ヲ禁止スルコトハ、決シテ能ハサル所ナリ、

然レ、大學校ノ教導若、公然ト、國家法制ノ基本ニ妨害アル片(例ヘハ、教師其教導ニ於テ、顛覆ホルヲ謀ルヲ以テ、國家治安ノ真正ナル原則ナリトシテ論說シ、或ハコムムニスムス<sup>(按)私有財產等ヲ始</sup>メ、人世萬緒ノ事ヲ務メテ、以テ、真正ノ私法トシテ均一ニナスノ制度、ヲ以テ、真正ノ私法トシテ、講論スルカ如シ)或ハ其教導全ク學校ノ要旨ト相反スル片(例ヘハ、神學ノ教導ニ於テ、基督教ヲ毀壞スル論ヲ發スルカ如シ)又ハ教師ノ講義



不正ニシテ、遂ニ世間ノ風俗ニ傷害アル等ニ於テハ、國家ハ帝ニ正論ヲ以テ、此暴惡論ヲ制壓スルノミナラス、必ス又権力ヲ以テ、之ヲ禁止スルノ權利ヲ施行スヘキヲ固ヨリ當然ナリ、是故ニ教導ノ方法若シ國家及學校ノ妨害トナルキニ於テハ、教導自由ノ權利モ全ク其用ヲ為サ、ルニ至ルナリ、○凡ソ博士ノ教導ヲ掌ルヤ、實ニ公衆ノ為メニスル所ナレハ、公衆ノ秩序及安寧ヲ保全セシカ為メニ、此自由權ヲ限制スルハ、固ヨリ已ムヲ得サルノ理ト云フ可シ、蓋シ國家他日ノ盛衰

存亡ハ、實ニ今日少年輩ノ知識開明如何ニ由ル者ナレハ、國家ハ必シ良教師ヲ選用スルニ、最モ意ヲ用弁サル可ラス、然ルニ此用意或ハ粗漏ニシテ、不良ノ教師ニ教導ヲ委ヌルハ、其教導遂ニ不正ニ流レテ、却テ少年輩ノ才徳ヲ毀損スルニ至ルハ必然ナリ、而テ此事決シテ少年ノ罪ニアラス、實ニ國家自ラ犯ス所ノ罪ナリ、豈敬マサル可ケンヤ、○但シ縱令ヒ實ニ己ムヲ得サルニアリテ、教導自由ノ權ヲ限制スルトモ、真正ニシテ且、緊要ナル教導自由ハ、必シ意ヲ用弁テ限制セサ



ルヲ要ス、蓋此自由權ヲ限制スル害タルヤ、教師  
 自ラ教導自由ノ權ヲ恣行スルノ害ヨリモ更ニ  
 甚シキニ至ル可シ、其他國家ハ決シテ瑣小ノ事  
 故ヲ以テ、其自由權ヲ限制ス可ラス、唯此自由權  
 ノ弊害、實ニ巨大トナリテ、容易ニ除去ス可ラサ  
 ルキニ於テノミ、己ハヲ得ス限制ヲ用井可シ、但  
 著述者ノ自由權ハ、決シテ教導自由ノ權ト同シ、  
 其限制ス可ラス、著述者ニハ、必更ニ大イナル自  
 由權ヲ與フルヲ要ス、○但、教導ノ自由權ヲ限制  
 ス可キト否トヲ決スルハ、條理上ニ於テハ、甚難

カラスト雖モ、實際ニ涉リ、其是非ヲ審判スルニ  
 至リテハ、大ニ難事ナキ能ハス、蓋此自由權ニ就  
 テ、若、爭論起ルコトアルニ方リテハ、不羈ニシテ且、  
 學識アル哲士ルゲヒヲノ判定ニ任スルヲ好トス、  
 然ルキハ決シテ政府ニ向テ、當理ノ不平ヲ唱フ  
 ル者アルコトナシ、

○

〔第六〕生徒受教ノ自由ハ、其理宛、カモ教師教導ノ  
 自由ト、相同シ、是故ニ受教ノ自由モ亦宜シク學  
 校ノ目的ニ從テ、限制ス可ク、且、此自由ヲ以テ、決  
 シテ教授ヲ受ケサルコトノ自由ト視做ス可ラス、



○凡、弱年ニシテニ、學問ノ蘊奧ヲ究メント欲スル大學生ハ、必、自由權ヲ保有セサル可ラス、蓋、此自由權ハ、學事勉勵、為メニ、勇氣ト歡樂ヲ增益シ、及、淺學ノ徒ヲシテ、未、曾テ窺ハレメサル寶庫ヲ開ク為メノ管鑰ヲ與フル者ナリ、是故ニ生徒如何ナル教師ノ教授ヲ受クヘキヤ、或ハ如何ナル學科ヲ研究スヘキヤ、等ノ、一、ヲ撰定スルハ、全ハ自己ノ所見ニ隨テ、可ナリ、且、大學校ニ於テハ、決シテ聽講ノ規則ヲ立ツ可ラス、下等學校ノ如キハ、此規則アルト、學習ノ為メニ大益アリト雖

大學校ニ於テハ、却テ害アリ、○但、教師等自己ノ意見ヲ以テ、生徒ノ學習ス可キ事ノ前後緩急等ヲ示教スルハ、當然ノト云フ可ク、加之、實ニ未、事ニ慣レサル生徒ヲ補助シテ、之ヲシテ學習ノ事ニ就テ、其弊害ヲ免レシメント欲スレハ、此事誠ニ緊要ナリ、蓋、榮譽ト自由トハ、大ニ學習練磨ノ事ヲ獎勵スルノ具ナリ、故ニ此二者ハ、固ヨリ故縱ナラシム可ラスト雖モ、又妄ニ之ヲ輕視シ、或ハ之ヲ認許セサルカ如キハ、大ニ不可ナリ、



第十二款 集賢館アカデ

〔第二〕國家人材教育ノ為メニ設置スル所ノ最上等ノ學校ハ、即チ大學校レウテニヘルニシテ、又學事ノ為ニ設ケル最上等ノ處ハ、即チ集賢館ナリ、但其實ニ至リテハ、或ハ茲ニ説クカ如クナラサレバ、素此二箇ノ學院ヲ建ツルノ旨意ハ、當ニ此ノ如クナル可シ、佛國ニ於テハ、リヰリウ、一千五百八十年ニ死ス、及ル路易第十四四十六百三十八年ニ即位シ、七百一十五年、ス、夙ニカラスニ盡シテ、盛大高尚ナル集賢館ヲ設ケレカバ、他各國ノ集賢館ハ、未曾テ佛國

ノ如ク盛大ナルニハ至ラサリキ、獨獨乙ニテハ、ライブツ、一千六百四十六年ニ死ス、生專ラ辛苦難ヲ侵レテ、新ニ集賢館ノ創立ヲ企テレカバ、能ク其志ヲ繼テ、之ヲ全ウスル者アラサリキ、佛國ノ集賢館スラ、猶且、其事業創立ノ時ニ方リテ考定セレ旨意ニハ、遠ク及ハサリキ、況ンヤ獨乙、英國、以大利、俄羅斯等ニ於テハ、其遠ク之ニ及ハサルハ固ヨリナリ、○集賢館ノ始メテ起リタル、猶斯ノ如ク遅ウシテ、實ニ今日ノ勢漸ク之ヲ盛大ニナスヘキノ時ナリ、故ニ此志ヲ達セント欲ヒ



ハ、全ク改革ヲ施スヲ恐ラクハ緊要ナラシ、今日  
 若カヲ盡シテ大改革ヲ謀ルキハ、蓋大功ヲ奏ス  
 ルヲ、至難ト云フ可ラス、但今日ヨリ其奏功ノ景  
 況ノ測定セント欲スルハ、決シテ能ハサル所ナ  
 リ、世人或ハ集賢館從來ノ事業ヲ論シテ、絶エテ  
 觀ルニ足ル者アラスト云フト雖、是甚々失當ノ  
 論ト云フ可シ、但學者ノ各個ニ為セル事業、及學  
 者數名相結ヘル義會ニテ施セル事業ノ如キハ、  
 或ハ大ニ功益ヲ興スヲアリト雖、此學者輩俱ニ  
 集賢館ノ事業ヲ施スニ至リテハ、其功益觀ルニ

足ル者多カラスレテ、却テ私ニ施セル事業ノ功  
 益ニ及ハサルノ弊アルヲ免レス、國家ハ特ニ集  
 賢館ヲ以テ、諸學院ノ最上等ト為スト雖、其奏功  
 ニ至リテハ、決シテ其地位ニ適セサルノ弊實ニ  
 之レアリ、○斯高尊ノ地位ヲ占メ、榮譽ヲ帶ヒタ  
 ル集賢館ニレテ、其事業ノ功益獨リ甚大ナラサ  
 ルハ何ソヤ、蓋集賢館ハ、實ニ何物タルヤノ理未  
 明カナラサルカ為メ歟、抑未實ニ集賢館ノ趣旨  
 ニ適スヘキ制度アラサルカ為メ歟、  
 人多クハ集賢館ヲ以テ、唯賢儒碩學ノ輩自ラ好



テ會社ヲ結ヒ、而テ互ニ學事ヲ討論琢磨ヒ、及世  
人ノ儀表トナリテ、世ノ開明ヲ勸誘スル者トナ  
シ、而テ其事業タルヤ、學校ニ於テ專ラ生徒ノ教  
導ヲ掌ル者トハ全ク相異ニシテ、唯名儒碩學輩  
自己ノ意ニ從テ、互ニ其發揮スル所ヲ受授ヒ、學  
業ヲ獎勵ヒ、及裨益ヒ、以テ學問ノ區域ヲ增大ス  
ルヲ旨トスヘキ者ト為セリ、  
去レ此ノ如キ所見ハ未ダ其真理ヲ盡セリトナス  
可ラス、凡學問ニ係レルハ實ニ一個人ノ精神  
ニ屬スル者ニシテ、獨一個人ノ精神、餘ク之ヲシ

テ發生セシメ、及能ク之ヲシテ進歩セシムルノ  
ミ、未ダ曾テ會社ノ合力能ク學問上ニ新發明ヲ為  
セシマアルヲ聞カス、唯一個人其私業ノ勉勵ニ  
由テノミ、能ク學問ノ寶貨ヲ増殖シ、且能ク學問  
ノ開明ヲ裨益シタルノミ、○是故ニ集賢館ニ於  
テ、賢儒碩學ノ會同ニ由テ新發明ヲ為シ、及學問  
ノ寶貨ヲ増殖セシマハ、未ダ曾テ之ヲラス、唯集賢  
館學士ハ、或ハ草莽學者ヲ補助シテ、博集院〔延學  
術ニ  
要スル書籍器械、及物品ヲ建立セシメ、或ハ草莽  
等ノ集貯スル處ヲ云ス、ヲ建立セシメ、或ハ草莽  
學士ニ集賢館建ツル所ノ博集院ニ就テ、學術ノ



研究ヲ為スヲ許シ、或ハ公費ヲ以テ、草莽學者ノ  
 學業上ニ要スル費用ヲ補償シ、或ハ公費ヲ以テ、  
 私人著述スル所ノ書ヲ出版スル等、以上總テ大  
 ニ草莽學者ノ學業ヲ裨益スルノ功アリ、去レ之  
 ヲ要スルニ、是等ノ一ハ、皆以テ集賢館ノ本務ト  
 云フニ足ラスレテ、或ハ私人ノ力ト雖、亦能ク之  
 ヲ辦スヘキノミ、是故ニ集賢館、縱令ヒ僅ニ是等  
 ノ一ニ力ヲ盡スモ、未曾テ直ニ學問ノ進歩ニ力  
 ヲ盡セリト云フニ足ラス、實ニ直ニ學問ノ進歩  
 ニ力ヲ盡ス一ハ、全ク一個人ニ任スルヲ要ス、決

シテ集賢館ノ主掌ト為ス可ラス、○是故ニ若シ學  
 問ノ區域ヲ増大スル一ヲ以テ、真ニ集賢館ノ主  
 掌ト認定スルハ、其事業ノ功益、實ニ觀ルニ足  
 ルヘキ者ナク、決シテ一個人ノ私業ニ優ル所ア  
 ラサルヲ以テ、恐ラクハ集賢館ノ聲價ヲ以テ、始  
 ト賤小卑低ナル者ト為スニ至ル可シ、  
 是故ニ吾輩ハ、必、他ノ事業ヲ以テ、集賢館碩學會  
 社ノ聲價ニ適セル職掌ト為サント欲ス、凡、學問  
 ノ事、輒近始メテ教會ノ看護ヲ脱セシ以來、未能  
 ク學林ノ中央ニ位シテ、學問ヲ統括スル者アル



ヲ見ス、若シ學林ノ中央ニ位シテ、學問ヲ統括スル者アリテ、且、其制、實ニ良正ヲ得レハ、絶エテ學問ノ自由ヲ妨害セスシテ、却テ天下學事互相ノ連絡ヲ通察シ、且、學事ト公私諸事トノ關係ヲ詳密ニ探索シ、及、之ヲ尊重スルヲ得可ク、并ニ國家ノ權域ニ屬スヘキ學事監督及ヒ其眷顧ヲ補助シ、此般ノ事ヲシテ、正理ニ合スルコトヲ得セシムルハ、甚々難キニアラサルナリ、○右論スル所ノ諸件ノ如キハ、實ニ今日ニ在テ、國家人民ノ文化開明ヲ增益スルカ為、頗ル緊要ナルト云フ

可シ、然ルニ今時ノ如キハ、上件ノ諸事ヲ掌ルヘキ者未、猶アラサルカ故ニ、諸學事互相ノ連絡、及、學事ト公私諸事トノ關係等全ク消滅シテ、互ニ隔絶シ、互ニ分離スルニ至レリ、蓋、精神靈魂ハ、人毎ニ自ラ相異ナル所少カラスト雖、必、又互ニ一致合同スル所アル者ナリ、然ルニ斯諸學事ノ連絡、及、學事ト公私諸事トノ關係消滅シテ、互ニ隔絶分離スルカ如キハ、實ニ人性ニ戾リ、且、國家ノ要務ニモ、相反スル者ト云フ可シ、凡、學問ノ開明上進ヲ促シ、及、國家人民ノ公益共



利ヲ増サント欲セハ、必、右論スルカ如ク、天下學  
 林ノ中央ニ位レテ、學問ヲ統括スル者アラサル  
 可ラス、而テ此統括者ハ、敢テ各個學士ノ事業ヲ  
 補足賛成スルヲ以テ、其務メト為スヲ要セス、必、  
 國家ト學問トノ關係ヲ省察管理シ、而テ偶々諸  
 學事ノ連絡、及、學事ト公私諸事トノ關涉消滅シ  
 テ、互ニ隔絶解離スルニ至ルヲ調護レテ、能ク此  
 連絡關涉ヲ保全スルヲ以テ、其務メトナスヲ要  
 ス、○且、此統括者ハ、必、其中央ノ凸處ニ位レテ、常  
 ニ左ノ數件ヲ掌理スルヲ緊要ト為ス、即、天下學

事ノ景狀ヲ洞視監察シ、學問ノ盛衰隆替ヲ起ス  
 所ノ原因如何ヲ探索シ、學問上ニ功勞アル者ヲ  
 尊重シ、學問ノ上進ヲ裨補スルニ、國家ノ補助ヲ  
 要スルヲアレハ、之ヲ補助シ、實ニ學問ノ妨害ト  
 ナルヘキ者ヲ蠲除シ、學事ノ私會社、或ハ碩學鴻  
 儒等ト相接シ、及、學問ノ為ニ博集院ヲ設ケ、更ニ  
 之ヲ盛大ニナス諸件ヲ云フナリ、○蓋、若、右等ノ  
 事ヲ以テ、集賢館學士ノ職掌トナスノ制度ヲ立  
 ルハ、集賢館學士ハ、即、教部省クルツリスニ  
 道及、諸學術ノ事務ノ參議官ノ如キ者ニシテ、例  
 掌ル者ヲ云ス、



ハハ議政官之七第六款ニ詳ナリ、（按）卷タル者君主ノ參議官トナリテ、立法施政ノ高議ニ加ハルカ如  
 之、是故ニ若此意ヲ以テ集賢館ノ學士ヲ選任シ、  
 以テ其職務ニ從事セシムルニ至ラハ、此學士等  
 ハ、當ニ天下學林ノ上位ヲ占ムルノ名アルノミ  
 ナラス、其實モ亦真ニ此名一適合スト云フ可シ  
 從來存スル所ノ集賢館ニハ、某二三ノ學科ヲ缺  
 キ、唯專ラ數學及、物體理學ト、史學及、心性理學ト  
 フ主的小為ス、去レ此制度ハ甚可ナラス、余カ見  
 フ以テスレハ、集賢館實ニ天下學林ノ中央ニ凸

處ヲ占メテ、常ニ天下ノ學事ヲ洞視監察セント  
 欲スルハ、其館ノ制ヲ設定スル、必學問ノ大要  
 種類ト、及其制度トニ從ハサル可ラス、然ルニ從  
 來集賢館ニ於テ、學問研究ノトヲ旨ト為スカ故  
 ニ、此館ノ實際ニ功益ヲ為ス、甚僅々ナルノ大  
 弊ヲ生シタリ、但此館ヲ設置スル、本意タルヤ、  
 決シテ其學士ヲシテ直ニ學問ノ開明ニ從事セ  
 シムルカ為ニアラスシテ、總テ世道ノ上達ヲ省  
 察セシムルカ為ナリト云フノ理明瞭トナレハ、  
 從來ノ制度ハ、決シテ此本意ヲ達スルニ足ラナ



リレ者ナルヲ、亦自ラ明瞭ナル可シ、  
 是故ニ專ラ國家ノ治體ニ著眼シテ、集賢館ヲ設  
 置スルキハ、佛國ノ集賢館ハ、稍此目的ヲ以テ設  
 立スル者ナリ、學問文事ニ於テ、卓絶ノ名ヲ得ヌ  
 ル輩ハ、總テ其學科流派ニ拘ハラヌ、必之ヲ拔擢  
 セサル可テス、神學者法學者ノ如キモ或ハ之ヲ  
 除キ、或ハ徒ラニ之ヲ負外ニ置ク可ラス、若此ノ  
 如クスルキハ、之ニ由テ遂ニ學問ト實地トノ關  
 係ヲ毀損スルニ至ル可シ、何者神學者法學者ノ  
 如キモ、亦必、世道ノ開明上進ニ於テ、大ニ利害ヲ

生スル者ナレハナリ、蓋、國家ハ、當ニ大小學校ノ  
 教導ヲ省察シテ、之ヲシテ世道ニ利アラシムル  
 ヲ以テ足レリト為スノミナラス、必、亦賢儒碩學  
 ノ相合セル集賢館ヲシテ、實ニ世道ニ利アラシ  
 ムルヲ要ス、  
 集賢館ノ事業ハ、大抵左ノ諸學ニ隨テ區分ス可  
 シ、即、第一物體理學、但、醫學亦或ハ之ニ屬スヘシ、  
 第二心性理學、但、殊ニ博文學、及、學制ニ係レル  
 ニ專、關係ス、第三政治學、史學、但、國家學及、法學亦  
 此科中ニ屬ス、第四神學、但、殊ニ學問開明ノ次第



ニ著意スルヲ旨トス、第五美文學ラソール按珠

ニ詩學、但、國家從來此學ヲ以テ殆ト無益ノ者、

如クナスト雖、其利益タル、決シテ少ナカラス、

〔第三〕若、集賢館從來ノ職掌及、編制ヲ改メテ、上章

ニ論スルカ如ク為スキハ、其學士ノ講義法モ亦

隨テ改革セサル可ラス、獨乙人

百八十五ノ論ニ、凡、將來事業ノ萌芽ヲ産出シ、及

學問ノ為ニ豊富ノ材料ヲ育成スルハ、集賢館ノ

講義ヨリ優ル者アラスト云ヒシカ氏、此說實ニ

當レリト云フ可ラス、但、集賢館出版ノ書籍中記

載スル所ノ新奇ノ論說等ハ、決シテ忽視ス可ラ

スト雖、是等ノ一ハ、決シテ集賢館ノ要務ト云フ

ニ足ラス、是故ニ凡、集賢館學士ノ講義ハ、專ラ各

學科開明進歩ノ次第ヲ明白ニ指示シ、及、學問ノ

實際上ニ利害ヲ生スル如何、學問ノ得失如何等

ヲ確實ニ辨明スルヲ主旨トスヘシ、○但、集賢館

ニ於テハ、決シテ講義ヲ以テ要務トナス可ラス、

蓋、講義ヲ以テ要務トナスカ如キハ、彼ノ專ラ學

問ノ進歩ニ從事シ、且、學問ノ開明ニ由テ、真誠ナ

リト認定セラレレテ、廣ク傳播スルヲ旨トナ



セル集賢館〔按〕從來ノ集賢館ヲ云フ、於テ、專ラ撰取〔按〕明論確說ヲ撰取スルト陳說〔按〕集賢館學士等、自ラ明論確說ヲ云フ、トナスヨリモ、更ニ不可ナリトス、

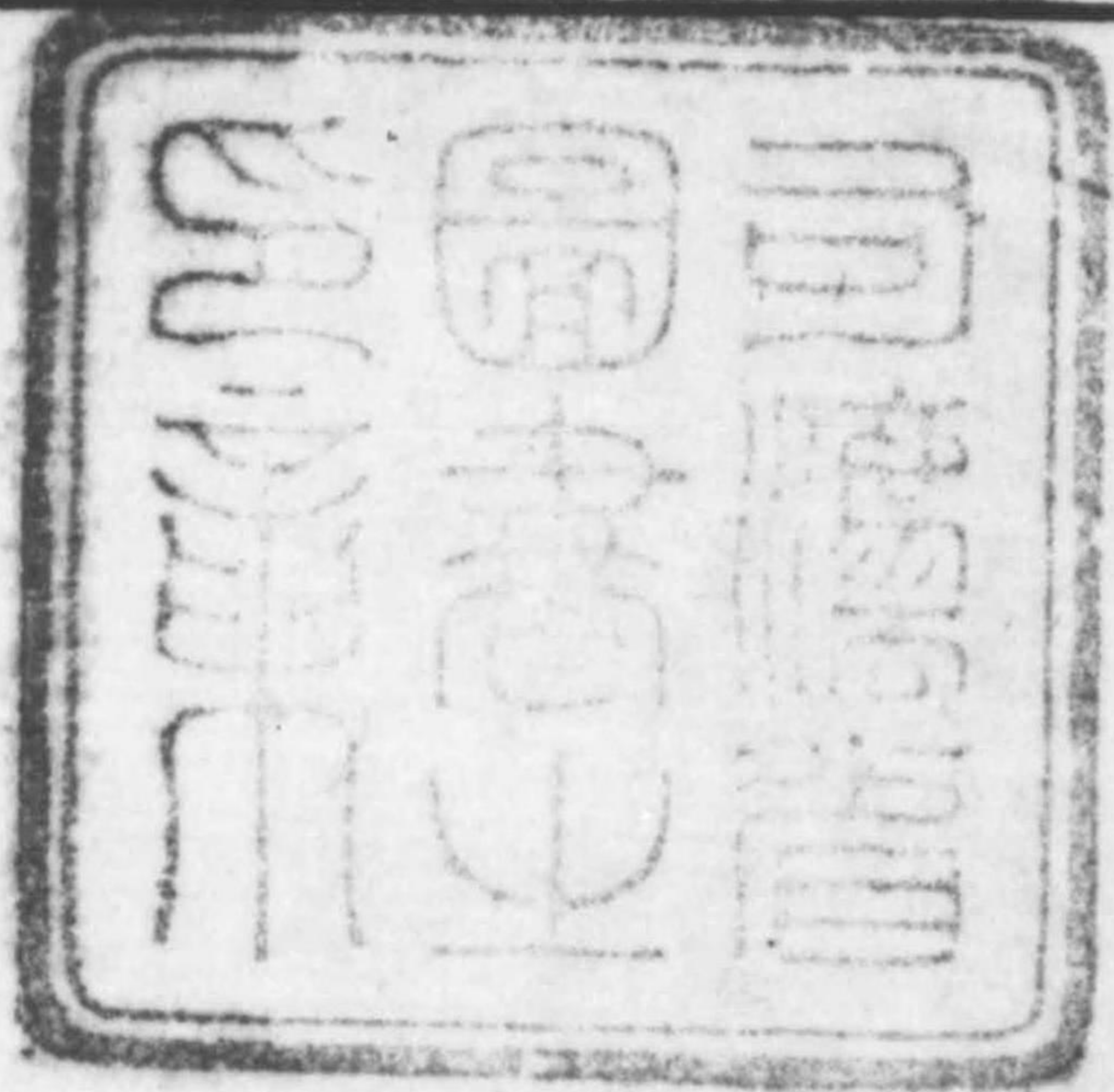
譯者曰、本款ノ意甚々錯雜シテ、殆ト解シ難キカ如シト雖モ、之ヲ要スルニ、集賢館ハ自ラ學問上ノ發明進步ニ從事スルヲナク、特ニ學問ノ景況ヲ省察シ、及、學問ト實際トノ關涉ヲ眷顧シ、而テ學問ヲシテ、實ニ世道ノ上進人智ノ開明ニ裨益セシムルヲ以テ、其主務ト為ス

ヘキ所以ヲ論說スルナリ、

大井潤一 校

國法汎論卷九下終







10  
2  
10